

日本立志編

一名修身軌範
下河岸貫一著述

四

福岡第一師範學校
學校圖書

書名	號
社會學部 倫理學	
日本倫理學 叢書	
卷	
第	
冊	
分類號	150.118

T1A1
22
C 43



a 1380321767a

福岡教育大学蔵書

千河岸費一著

日本立志編序

壹居膺或規範

版權所有 雙書房合梓

日本立志編序

余讀是書而喜感交至不能自已何也以余之所為而同志之人有應之者也歌者登場奏技而滿堂喝采則未有不神揚色喜者矧余之西國立志編印出逾萬數而又有千河岸君此著雖另開生面而要不外于立志本旨以扶植綱常砥礪名節崇忠厚而抑浮薄獎廉勤而戒貪惰其警世之意既與余同而其範圍則更加大

○東京中村正直先生序

焉。余烏得不感喜乎。嚮者。荒野氏作日本品行
 論。以配余西洋品行論。今有此編出。而余之立
 志編。亦賴以不孤矣。傳曰。人之欲善。誰不如我。
 不其信笑乎。

明治十三年五月十三日

敬宇中村正直撰



日本立志編卷四目次

清蕪ノ部

- 清蕪ハ志操ヲ屈抑セザルノ基ナルヲ叙ス 初丁
- 第一 橘良基一清ヲ以テ治民ノ要術トナスナリト
語リタル事 二丁
- 第二 冨小路右大臣自ラ杓ヲ執テ鹽漉セシ事 四丁
- 第三 源雅定朝臣門庭寂閑タリシ事 四丁
- 第四 佐藤憲清世ヲ厭フタル事 五丁
- 第五 白拍子佛ノ前髪ヲ削テ潛カニ第ヲ出タル事
七丁
- 第六 釋高辨無欲ヲ以テ北條泰時ニ誨ヘタル事 九丁
- 第七 青砥藤綱祿ヲ増スヲ辭シタル事 十丁

第八 成瀬正成重祿ヲ固辭シタル事 十三

第九 藪内匠先登ノ功ヲ争ハザリシ事 十四

第十 池田市郎兵衛功ナクシテ祿ヲ加フルヲ耻ヂ

タル事 十七

第十一 黒田彦右衛門功ヲ人ニ讓リタル事 十九

第十二 菴原助右衛門將首ヲ人ニ與ヘタル事 二十

第十三 林新右衛門子孫ノタメニ祿ヲ食ムヲ否ミタ

ル事 二十三

第十四 成瀬正一盈満ヲ以テ戒メト為シタル事 二十四

第十五 市橋長璉ノ後室ノ清介ナリシ事 二十五

第十六 佐藤塵也伯母ノ贈ル所ノ金ヲ辭シテ受ケザ

ル事 二十七

第十七 伊藤一元ガ少欲知足ナリシ事 二十九

第十八 中井積徳ガ韓愈ヲ賤ミタル事 三十

第十九 仙石氏ガ清廉剛勇ナリシ事 三十一

第二十 鑿道菴ノ清介ナリシ事 三十二

第二十一 小島蕉園金ヲ卻ケテ受ケザリシ事 三十三

第二十二 販魚者谷平遺金ヲ還ヘシタル事 三十四

日本立志編卷四

千河岸 貫一 撰述

清蕪ノ部

清蕪ハ志操ヲ屈抑セサルノ基ナルヲ叙ス

清蕪ハ貪汚ノ反ナリ。人清蕪ナラザレバ、財貨ニ眩シ、榮利ニ迷ヒ、遂ニ其志操ヲ守ルヲ能ハズ。其身ヲ喪ボシ、其家ヲ亡ボスニ至ラン。故ニ古ノ明君賢相ハ、清蕪ニシテ寡欲ナルヲ以テ、國ヲ治ムルノ秘訣トス。之ヲ以テ其威權ヲ貪ボラズ、藹藹ノ言ヲモ聽キ、布衣ノ士ヲモ禮遇ス。之ヲ以テ其聲色ヲ貪ラズ、飲食ヲ菲ツシ。宮室ヲ卑フシ、珍禽奇獸ヲ弄バズ。士庶人ト雖、亦何ゾ貪汚ニシテ、能ク一事一業ヲ成就スベキモノナランヤ。視ヨ夫ノ學業ニ從事シ、半途ニシ

テ發スルモノハ、一資半俸ヲ食ルガタメニ、簿領ニ齷齪シテ、己レガ智識ヲ研磨スルニ違マラザルナリ。夫ノ朝夕ニ開店シテ、夕べニ閉肆スルモノハ、非常ノ巨利ヲ食ルガタメニ、什一ニ安ンズル能ハズ。一朝蹉跌シテ、夕如何トスルヲ得ザルニ至ルヲ以テナリ。夫ノ一時令聞廣譽アリ、聲價頓ニ低下シ、人ノ敢テ顧ミルナキニ至ルモノハ、虛名空譽ヲ食ルガタメニ、外面ヲ塗抹スル所ノ學識、道德、容易ニ剝落セルヲ以テナリ。夫ノ身縲紲ノ辱メヲ受ケ、鐵鎖其足ヲ約シ、日々驅役ノ懲罰ヲ被ムルモノハ、貨財ヲ食リ、食色ヲ貪リ、以テ己レガ嗜欲ヲ充タシガタメニ、父母ノ遺骸ヲ辱シムルコト忘レ、強竊盜ヲナシ、若クハ強姦等ヲ為シタル罪犯ニ由テ、處刑セラレタルモノナリ。其他社會百

般ノ事、禍亂敗亡ノ基、喪身亡家ノ本トナル者、貪ニ原セリ。ルモノナシ、而シテ匹夫モ猶ホ三軍虎旅ノ兵ニマサル所ノ、不技不撓ノ志操ヲ持スルノ本ハ、一廉清ニアリ。苟モ廉清ノ守操アル、富貴モ淫スルニ足ラズ、貧賤モ犯カスニ足ラズ。視ヨ周ノ武王、殷ヲ征スルニ方リ、諸侯期セズシテ會スル者八百、馬ヲ叩テ之ヲ諫メタルモノハ、獨リ伯夷叔齊、ミ、而シテ八百人ノ諸侯ハ誰ナルヤ。一人モ其姓名ヲ知ルニ由シナシ。孤竹君ノ二子ノ、首陽山ニ餓死セルモノ、ミ、其清廉獨潔ノ名ヲトシメ、十載ノ下、汗青ヲ照ス。廉ト貪ト、得失、亦以テ見ルベシ。然ルニ世間廉清ナル者ハ至テ寡ク、貪汚ナルモノハ極メテ多シ。况ヤ輓近ニ於テヤ、爭利ノ風益甚シク、廉清ナル者ヲ見テハ、之ヲ訾笑シテ偏

因トナシ。競名ノ俗月ニ熾ニシテ。謙退ナル者ヲ目シテハ。之ヲ嘲罵シテ頑陋トナス。故ヲ以テ平素不屈不撓ノ志操ヲ持マシル者ナクシテ。應耻漸クマサニ地ヲ掃ハントス。豈ニ慨然タラザルヲ得ンヤ。吾頃古來賢人哲士等ノ。蕪清寡欲ナル行事ヲ輯録シ。此ヲ標掲スル所以ノモノハ。他無シ。其風ヲ聞クモノヲシテ。貪汚ヲ變ジテ清廉トナサシメ。以テ風化ノ萬一二裨補スル所アラシクヲ希望スルノミ。

第一 橘良基一清ヲ以テ治民ノ要術トナスナリト語リタル事

橘良基ハ左京ノ人。左大臣諸兄ノ裔孫ナリ。良基幼ニシテ岐嶷。早ク風概アリ。治體ニ鍊達シ。蕪清ヲ以テ自ヲ守ル。初メ左京以進ニ除セテ。數年ニシテ民部以丞ニ遷ル。天安

ノ初二於テ事ニ因テ旨ニ忤ヒ。天皇怒リテ其官ヲ褫奪セラル。貞觀中。復タ起テ木工少允トナリ。式部丞ニ遷リ。從五位ニ叙シ。伊豫。常陸。越前。丹波。信濃ノ守介ヲ歷タリ。治當時ノ最ト稱ス。仁和中年六十三ニシテ卒ス。良基素ヨリ清貧ヲ甘ム。シ朴素ニ安ム。ズ。家ニ甑石無シ。中納言在原行平。贈スルニ絹帛ヲ以テスルニ由リ。僅カニ殯葬スルヲ得タリキ。其五列ニ歷任スルヤ。罷メ歸ルゴトニ資糧ヲ載セス。其子孫ニ訓誨スルニ身ヲ潔ハスルヲ以テ本ト為ス。ノ旨趣ヲ以テス。人アリ嘗テ牧民ノ要術ヲ問フ。良基對テ曰ク。百術アリト雖。一清ニ如カザルナリト。亦以テ其平生守ル所ノ如何ヲ見ルベシ。

櫻所子曰ク。昔時王政ノ隆ナル。庶吏其人ニ乏シカラスシ

テ能ク熙々皞々ノ太平ヲ致シタリト雖氏中ニ就テ良基ノ如キハ後世地方ノ官吏トシテ人民ニ親シク接スルモノ、龜鑑トナスベシ抑モ地方ノ任ヲ負ビ其管理ニ備スル所ノ人民ノ望ミヲ収ムルノ術ハ曰ク勸學勸農勸商ナリ曰ク道路橋梁堤防ノ修築ナリ曰ク警察病院ナリ其他諸般ノ事務ニ就テ部民ヲシテ悦服セシムベキ所ノ方術多カルベシト雖氏唯一ノ清廉ヲ闕クハ惠ハ春風ノ如ク化ハ膏雨ノ如クナラントセシモノモ忽チ變シテ怨嗟ノ聲ト為ラン然バ則チ百術アリト雖氏一清ニ如カザルノ言果シテ信ナラズヤ特リ地方ノ官吏ノミナラス農工商估諸種ノ業ヲ營ムモノト雖氏亦其業務ノ繁濼ヲ計ラシニハ未ダ嘗テ貪汚ニシテ詐術黠策ヲ逞フスルニ由テ

其志望ヲ果タシ遂ゲタル者ハアラズマタ是百術アリトイハ氏一清ニ如カザルモノニ外ナラザルナリ

第二 富小路右大臣自ラ拘ヲ執テ鹽澁セシ事

藤原顯忠ハ左大臣時平公ノ第二子ナリ天徳中官ヲ歷テ右大臣ニ至リ從二位ニ叙セラル薨ズル年六十八詔シテ正二位ヲ贈クル富小路右大臣ト稱スルハ是ナリ公生平廉清ヲ尚トビ節儉ヲ重ンズ第宅器什ヨリ衣服飲食ニ至ルマデスベテ朴素ナラザルハナシ鹽澁スルニ盤ヲ用ヒズ自ラ拘ヲ執テ灌洗ス大臣タルニ至テモ出ルニ前驅ナク騶從亦甚ダ歎シ其大饗ヲ設クルヤ治具簡約ニシテ堂無一モ裝飾スル所無カリシトイフ

櫻所子曰ク時平公道真公ト並ビニ左右大臣トナリ道真

ヲ構陷シ。道真遂ニ配所ニ薨ズ。既ニシテ時平公ノ諸子相繼ヒテ物故ス。世道真ノ靈ノ崇ル所口トス。而シテ富小路右府官位顯達。其朝ニ立ツト最モ久シ。是公ガ庶清寡欲ノ報ニアラズヤ。

第三 源雅定朝臣門庭寂聞タリシ事

源雅定朝臣ハ。久安年間内大臣ニ拜セラレ。藤原實行朝臣モマタ右大臣ニ拜セラレ。往テ賀ヲ致スモノアリ。車馬門外ニ填咽ス。其謁ヲ通ズルニ及ビ。實行朝臣盛服シテ出ツ。喜氣眉宇ニ溢ル。既ニシテ雅定朝臣ノ許ニ至レバ。門庭寂聞トシテ。他ノ營設ナシ。倉卒出デ。見テ曰ク。凡ソ大臣ニ拜セラレ。者ハ。大饗等ノ儀アリ。事頗ル煩擾ナリ。子ガ輩何ゾ之ヲ賀スルコトヲ為シヤト。

櫻所子曰ク。大臣ハ人臣最高ノ官タリ。實行朝臣ノ喜氣眉宇ニ溢ル。モノ固ヨリ情ノ宜ク然ルベキ所ナリ。然リト雖。門庭寂聞トシテ。他ノ營設ナキニ較ブレバ。亦人ヲシテ其優劣アルコトヲ覺知セシム。

第四 佐藤憲清世ヲ厭フタル事

憲清ハ。藤原秀鄉九世ノ孫ナリ。累世武ヲ以テ名ヲ著ハス。憲清マタ勇敢ニシテ。射ヲ善クシ。頗ル鈴輪ニ通ジ。和歌ニエミナリ。鳥羽上皇ニ仕ヘテ。北面ノ士トナル。上皇其才ヲ愛シ之ヲ遇ズルコト優渥ナリ。然レ。性廉介ニシテ世ノ榮利ヲ喜バズ。常ニ遁世ノ志ヲ抱ク。嘗テ族人左衛門尉憲康ト。モニ。鳥羽殿ニ朝シテ還ル。別ル。ニ臨ム。デ明日同ク朝センコトヲ約ス。憲清期ニ及テ往久。家ニ哭聲ヲルコト聞キ。

惟ムデ訪問セバ、則チ憲康前宵暴カニ死ス。憲清場然タリ。
遂ニ慨爾トシテ志ヲ決シ、妻子ヲ棄テ家ヲ出テ、僧トナ
ル。西行法師是ナリ。西行常ニ謂ス、出家ハ家無シ、須ラク抖
擻以テ身ヲ終ハベシト。是ニ於テ東關西海、遠トシテ到ラ
ザルナシ。其得意ニ當テハ、吟咏シテ自適ス。歎ジテ曰ク、一
生ハ幾クモ無シ。來世近キニ在リト。高雄神護寺ノ僧支覺。
西行ヲ悦バズシテ曰ク、汝門ヲ業ト為スモノハ、宜ク唯道
是修スベシ。彼レ何為スル者ゾ。四方ニ周遊シテ、吟詠日ヲ
渡ル。實ニ佛門ノ賊ナリ。吾若シ之ヲ見バ、必ず其面ヲ毆タ
ント。西行高雄ニ抵リ、支覺ト與モニ語ル。容貌極メテ恭シ。
其徒支覺ニ謂テ曰ク、師何ゾ彼ガ面ヲ毆タズシテ之ヲ禮
遇セルヤト。支覺曰ク、彼レハ我ガタメニ毆タル、者一ア

ラズ。反テマサニ吾ヲ毆タントスト。又鎌倉ヲ過ギ、路ニ源
將軍賴朝ニ逢フ。賴朝因テ召見ス。射馭及ヒ和歌ヲ問ヒ、歎
語スル一夕。侍臣ヲシテ其言ヲ所ヲ筆記セシム。翌日辭シ
テ行ル。賴朝固ク留ムレトモ可カズ遣クルニ銀貓ヲ以テス。
受テ出ツ。適門側ニ兒童ノ遊戯スルヲ見、之ヲ予ヘテ去ル。
建久元年ノ二月、年七十二ニシテ、京都ニ歿ス。
櫻所子曰ク、西行ガ銀貓ヲ抛チタル、入口ニ膾炙スル所ナ
リ。然リト雖モ西行ニシテ之ヲ為ス。蓋シ深ク之ヲ奇トス
ルニ足ラザルモノナリ。初メ憲清ガ鳥羽上皇ノ寵遇ヲ得
ル。若シ之ヲシテ富貴利達ニ汲々タルモノナラシメバ、何
ヲ苦ムデカ捨家棄欲ノ人トナランヤ。神護寺ノ支覺曾テ
西行ガ為ス所ヲ悦ビサルモ、其之上相見ル。容貌極メテ恭

シク、後子其徒ニ語ルニ、彼反テ將サニ吾ヲ毆タントスト
謂フヲ以テス、其道德夙カニ文覺ノ右ニ出ヅル所アルヲ
知ルニ足レリ、賴朝ハ、日本武將ノ政柄ヲ掌握セル者ノ始
祖タリ、其威權アリ勢カアルハ、固ヨリ言ヲ待タズ、其召見
スルニ及ビ、一タニシテ行ル、之ヲ留ムレト聽カズ、嗚呼、西
行既ニ世ノ榮利ヲ觀ルト敵履ノ如ク、天子得テ臣トセス、
將軍得テ友トスル能ハサルノ守操アリ、何ソ區々タル銀
貓ヲ愛重センヤ、之ヲ土芥視スル、亦唯ムニ足ラサルナリ、
而シテ世人往々其銀貓ヲ兒童ニ授與シタルトテノミ噴
噴シテ、其榮利ヲ以テ雲煙過眼ニ付シタルトテ歎稱セズ、
是固ヨリ西行ヲ知ルモノニ非ルナリ、而シテ今ノ身ヲ釋
門ニ寄スル輩、高堂巨閣ニ住シ、飽煖安逸ヲ貪リ、權門勢家

ニ勝ラズシ、貪名營利至ラザルナキモノ、西行ノ為ス所ヲ
見テ、須ク慚愧懺悔ノ心ヲ起スベキ也。

第五 白拍子佛、前髪ヲ削テ潛カニ第ヲ出ル事

平清盛ノ嬖姫、妓王ト云ハルモノアリ、姿色婉麗ニシテ歌
舞ヲ善クス、西八條ノ第二居ル、恩遇頗ル厚シ、後子白拍子
佛御前ナル者アリ、自ラ西八條ノ第ノ門ニ踵リ、舞ヲ觀ン
トテ請フ、清盛怒リ、人ヲシテ言ハシメテ曰ク、鼎鑪スラ猶
ホ耳アリ、汝ガ未ダ吾ガ嬖姫岐王アルトテ聞カサルカト、
佛固ク請フテ已マズ、妓王之ヲ憐ミ、遂ニ清盛ニ勸メテ其
請ヲ許サシム、佛乃チ場ニ登リ、衣ヲ整ヘテ進ム、容色絶ハ
ダウルハシクシテ、睽眄人ヲ動カス、清盛之ヲ艶ナリトシ、
神思恍惚タリ、舞竟ハルコト、手ヅカラ佛ヲ擁シテ後房ニ

入ラシム。佛愧謝シテ曰ク。妾ガ僂ラント欲スル者ハ舞ナ
 リ。枕席待スルガ若キニ至テハ。則チ妓王ノ在ルアリ。請フ
 今ヨリ辭セント。清盛肯ンゼス。遂ニ佛ヲ留メテ妓王ヲ逐
 フ。妓王悲泣シ。和歌ヲ障子ニ題シテ曰ク。金衣以都留毛加
 留流毛於奈志。能遍能久佐。以都禮加阿幾仁。阿波衣波都遍
 幾。居ル丁數月。清盛人ヲシテ妓王ヲ召シ。佛ノタメニ舞ヲ
 奏セシム。妓王慚憤シテ。肯テ命ニ應セズ。其母曰ク。相國ハ
 虎狼ナリ。命ニ違フトキハ。則チ搏噬立トコロニ至ラント。
 妓王已ムヲ得ズ。而ハ條ノ第二入りテ舞フ。今様ヲ唱テ曰
 ク。佛モ木ト是レ凡夫ナリ。凡夫モ終ニ佛ナリト。空ヲ舉ゲ
 テ嘆嘆ス。清盛纏頸ヲ賜タヘテ之ヲ遣ル。妓王佛ノ使役ス
 ル所トナルヲ取テ。其母及ビ妹妓女ト髮ヲ削テ尼トナリ。

草菴ヲ差哉野ニ結ビユレニ居ル。一夜門ヲ敲ク者アリ。出
 デ、之ヲ視レバ則チ婉然タル美女子ナリ。曰ク身ハ是佛
 ノ前ナリ。本ト技ヲ術ハント欲ス。自ラ意ハザリキ。佛
 テ秋扇ノ數アラシメントハ。前日歌詞ヲ聞キ。赧作。故ニ
 髮ヲ削リ。潛カニ第ヲ出デ。此ニ至ル。願クハ自今以
 後。宿憾ヲ釋テトモニ。佛陀ニ事ヘ。以テ罪惡ヲ懺除セ。ト。
 妓王感喜シテ。遂ニ之ト同ク世ヲ終フト云フ。
 櫻所子曰。婦人女子ノ榮利ニ戀々タル。ユレヲ男子ニ比ス
 レ。更ニ甚シトス。其寵ヲ恃ムヤ。專横至ラザルナク。其
 恩ヲ妬ムヤ。酷虐極リナキ。之ヲ古來ノ史冊ニ徵スルニ。璧
 壁トシテ指ヲ屈スルニ違マアラズ。之ヲ大ニシテハ天下
 ヲ亂ダルノ殃。之ヲ小ニシテハ身家ヲ喪ホスノ禍。婦人曰

リ生ゼザルモノ鮮シ。其原因スル所他ナシ。婦女ノ性質多
 ケハ貪饒ニシテ、華奢ヲ好ミ、姿色ノ已レニ優サレルモノ
 子妬ムニ由レリ。夫ノ呂氏ノ人彘、趙家姊妹、皇孫ヲ啄メ
 ル。隋ノ獨孤后ガ宮人ヲ擇ムテ、惟肥大ヲ擇ベル。唐ノ武烈
 ガ嬪ヲ奪ヒ位ヲ篡ヘル。宋ノ李后ガ齋ニ因テ嬪ヲ殺セル。
 楚ノ鄭袖ガ新人ノ鼻ヲ掩フ丁ヲ教ヘタル。袁紹ガ妻、殭屍
 未ダ殯セズ、五妾首ヲ駢ベタル類。枚舉ニ勝ユベカラズ。然
 ルニ佛ノ如キ、后妃ノ尊アルニ非ルノミナラズ、白拍子ト
 シテ僅カニ歌舞ノ賤技ヲ鬻グモノ、ミ而シテ一朝髪ヲ
 削リ、西八條ノ第ヲ潜ミ出デ、貴顯ノ優遇殊寵ヲ視ル丁、
 糞上帝ヲラズ。是妓王ガ事ニ感發スル所アルニ由ルモノ
 ナルベシト雖氏、抑モ亦清介ノ志操アルニテラズシバ、焉

ソ能ク如此ナルヲ得ンヤ。憲清盛遠等ガ家ヲ捨テ欲シ棄
 テ、沙門トナリタルハ、丈夫ガ世態ノ常無キヲ觀テ、世ノ
 榮利ヲ浮塵漚沫視セル。亦深ク驚怖スベキニアラズトス。
 ルモ、女子ノ榮華ヲ脫離セルガ如キハ、實ニ鬚髻アル者ヲ
 シテ愧慙セシムルニ足ル者アリ。然リト雖氏妓王ノ若キ
 ハ、久シク秋扇ノ數ヲ懷キ、マタ他ノ玩弄スル所トナルヲ
 厭ヒ、身ヲ佛門ニ托セシモノナレバ、深ク感歎スルニ足ニ
 ズト謂フ可シ。佛ガ恩寵ノ久シカラザル丁ヲ、妓王ノ歌詞
 ニ感發シ、椒房蘭室ノ棲ヲ出デ、草屋柴扉ノ居ニ投ズ。其
 機ヲ知テ聊カモ猶豫セズ、義ヲ見テ利ヲ遺スル。其清廉敢
 為ノ志氣、儼然タル士君子ヲシテ、殆ンド後ヘニ瞻若タラ
 シム。賴子成曰ク、當時婦女ニシテ丈夫ナルモノアリ、今マ

則チ丈夫ニシテ婦女ナル者アリ、余是ニ於テ、以テ氣運ノ盛衰ヲトスルアリト、世ノ脅肩詭笑、榮利ニ眷戀シ、死ニ至ルマデ悟ラザルモノ、亦佛ノ前ニ耻ル丁遠シ。

第六 釋高辨魚欲ヲ以テ北條泰時ニ誨ヘタル事

釋高辨ハ山城國榎尾ニ住ス、明惠上人トテ、遠近ノ緇素共ニ景慕欽仰スル所ノ知識ナリキ、兼久ノコロ、鎌倉ノ執權北條泰時、京都ニ在リ、其名ヲ聞キ、往テ之ヲ訪フ、高辨泰時ニ謂テ曰ク、國ヲ治ムル丁ハ猶病ヲ治スルガゴトシ、若シ其原因ヲ究メズシテ藥劑ヲ投ズレハ、則チ徒ニ病ヲシテ增長セシムベキノミ、吾ツラツラ國ノ敗興理亂スル所以ノ原因ヲ推察スルニ人ノ欲心ニ在リ、此欲種々ニ名相ヲ換テ天下ヲ擾亂ス、故ニ人ノ上ニタルヒ、欲多ケレバ、則チ國亂レバ、ルモノハ未ダコレアラズ、子若シ苟モ其欲ヲ寡フシテ以テ斯氓ヲ率ユルトキハ、治安庶幾スベキナリト、泰時大ニ其言ニ數服ス。

櫻所子曰、太田錦城ガ悟窓漫筆ノ中ニ、此高辨ノ泰時ニ誨ヘタル事ヲ數稱シテ、要言不煩トイヘリ、惟フニ佛家ノ欲ヲ戒ムルヤ、貪欲ハ即チ三毒ノ一ニシテ十惡ノ中ニ位ス、戒定慧ノ三學、貪瞋癡ノ三毒ト、次デノ如ク、能治所治ナレハ、佛法中ノ戒法、即チ五戒、八戒、十善戒、二百五十戒、三千ノ威儀戒等、究竟スル所、此貪欲ノ煩惱ヲ對治スルガ為メニ設ケラレタルモノニ外ナラス、宜ナル哉、高辨ノ寡欲ヲ以テ泰時ニ誨示シ、以テ治國ノ要領トナセシ、然レバ則チ兼清寡欲也者ハ、之ヲ大ニシテハ天下國家ヲ平治スベク

之ヲ小ニシテハ一身一家ヲ修齊スベシ。世上貪欲熾盛ニシテ、禍機ヲ踐ムモノ多キハ何ゾヤ。他無シ病原ヲ究メズシテ徒ニ藥スルニ由テ、益其病ヲシテ增長セシムルニ坐スル耳。察セザル可ケムヤ。

第七 青砥藤綱祿ヲ増スヲ辭シタル事

青砥藤綱ハ、左衛門ト稱ス。北條時頼ニ仕フ。清藤剛直ヲ以テ稱セラレ、年少ヨリ學ヲ好ミ、釋行印ヲ師トス。歲大ニ早スルノアリ、時頼衆僧ヲ聚メテ大ニ施ヲ行ヒ、又親カラ三島ノ神祠ニ詣テ、雨ヲ祈ル。其束載ノ牛水中ニ没ス。藤綱傍ニ在リテ叱シテ曰ク、汝モ亦北條家ノ施行ニ倣フカト、衆其故ヲ問フ、曰ク、天方ニ早ス。牛ニシテ之ヲ知ラバ、宜ク田ニ没スベシ。今ノ僧ニ施サレ、ヤ、其貪ト廉トヲ甄別セ

ス。廉者ハ寧ハ饑ニレハ來ラズ。徒ニ貪者ハ欲ヲミタス。ハ。是奚ゾ牛ノ水中ニ没スルニ異ナランヤト。時頼此事ヲ聞キ、召見シテトモニ語り、大ニ其言ヲ悦ビ、藤綱ヲ技擢シテ引付衆ト為ス。公文トイフ者アリ。北條家ノ封人ト畔ヲ争テ訟フ。衆皆時頼ヲ畏レテ公文ヲ曲トス。藤綱獨リ正ヲ執テ之ヲ直トス。公文之ヲ德トシ、酬報スル所アラントスルヤ。夜中暗カニ錢ヲ苞ジ其後園ニ投ス。藤綱大ニ怒テ郵丁ヲシテ其錢ヲ還送セシム。而シテ夜間滑川ヲ過グ。其十錢ヲ水中ニ遺トス。乃チ五十錢ヲ捐テ、炬ヲ買ヒ、水ヲ燭ラシテ遺錢ヲ撈ハシム。人或ハ其得ル所失フ所ヲ償ハサハルヲ嗤フ。藤綱乃チ曰ク、五十錢吾之ヲ失ヘバ人之ヲ得。十錢ハ果シテ誰カ之ヲ得ルモノゾヤ。我六十錢ヲ捐テ、以

テ世ニ益スルナリ。何ノ損失カコレアラシヤト。藤綱自ラ奉ズル儉薄ニシテ施ヲ好ミ。布衣袴褶。室漆セズ。日ニ一膳ヲ食フ。時頼之ニ祿ヲ加ハント欲シテ曰ク。夢ニ神我ヲ見テ曰ク。汝ヲ治フ欲セバ。宜ク藤綱カ祿ヲ増加スベシト。藤綱曰ク。神祿ヲ増セト。謂フニヨリテ祿ヲ増シタランニハ。神若シ頭ヲ斬レト。謂フトキハ。頭ヲ斬ラル。ナラシカ。取テ辭スト。藤綱ガ清廉剛直。率ネ此ニ類ス。

櫻所子曰。北條氏陪臣ヲ以テ國政ヲ執リ。大權ヲ掌握スル者。九世ノ久シキニ及ベリ。是累世治民ノ術ニ長ジ。然カモ應清寡欲ヲ以テ外面ヲ粧飾シタルニ由レリ。其王室ニ對スルノ一事ニ於テハ。言フニ忍ビ。ザルノ跡多シト雖。其位官ヲ得ルヲ欲セズ。其宮室ヲ壯麗ニスルヲ欲セズ。モ

人曰ク。此ノ秘策ニテアリキ。而シテ此等ノ所為ハ。古來ノ英雄豪傑ト雖。氏善ク之ヲ為スモノ稀ナリ。時頼最モ已レガ嗜好スル所ヲ抑制シ。治國安民ニ汲々タルモノニシテ。而シテ藤綱ヲ草莽ヨリ擢デ。政務ニ參與セシム。風雲際會ト謂ツベシ。古來寒門白望ヨリ擢用セラレ。高官大祿。威望トモニ盛リナルニ及ビ。一朝ニシテ蹉跌シ。身ヲ喪ホシ家ヲ亡ボシタルモノ枚擧ニ違アラズ。揚子雲ガ所謂其穀ヲ味丹ニセント欲シテ其族ヲ赤ニスル者多カリシハ。安富尊榮ノ地位ヲ得レバ。則チ奢侈驕縱ニ流レ易キヲ以テ。故ニ非ズヤ。北條時頼ノ如キ。青砥藤綱ノ如キ。其弊ヲ鑒ハズ。亦異常ノ守操アリト謂フベシ。夫ノ神ノ夢ニ告ゲラレ

タルヲ以テ、祿ヲ増サント云ヲ辭シタル事ノ如ク、其意ヲ
得ルガタメニハ、直言極諫スベキヲ知ルモ、敢テ為サズ、其
甚シキハ堂々タル大臣ニシテ、關登ニ設ビ、嬖臣ニ諂ヒ、以
テ寵ヲ固フシ、祿ヲ増スコトヲ熱望セシ類、如漢ノ史冊ニ歷
歷タリ。若シ此輩ヲシテ知ルアラシメバ、何ノ面目アリテ
カ、藤綱ヲ地下ニ見ルヲ得ムヤ

第八、成瀨正成重祿ヲ固辭シタル事

成瀨正成、小字ハ小吉、後チ隼人ト稱ス。德川氏ノ臣ナリ。張
湫ノ役、家康公ニ從ヒ、一甲首ヲ獲テ之ヲ獻ズ。時、二年、浦ノ
テ十七ナリキ、公之ヲ奇トシ、命ジテ麾下ニ留マフシム、既
ニシテ我が前軍利アラズ、正成マサニ出テ、戰ハント欲
ス。從者馬ヲ叩テ諫メテ曰ク、君已ニ首級ノ功アリ、以テ已

ムベシト、正成怒テ曰ク、死ヲ畏レ義ヲ忘ル、ハ武ニ非ル
ナリ、誰マサニ進テ敵ヲ勦スベキノミト、從者猶嚮ヲ擊ル、
正成益怒リ、刀脊ヲ以テ之ヲ擊ツ、公望ミ見テ曰ク、是壯士
死戰ノ秋ナリト、從者未ダ嚮ヲ放ツニ及バズ、正成直チニ
馳テ敵中ニ入り、大ニ呼デ我が軍ヲ勸マシ、奮戰シテ敵ヲ
卻ゾク、後チ正成擢ムデラレテ根來團隊長トナル、公大ニ
正成ガ功ヲ賞シテ曰ク、老将宿帥ト雖、正過グルコトアタハ
ズト、蓋シ公ノ麾下ニ於テ、成童ニシテ隊長トナル者ハ正
成一人ノミナリト云フ、大坂ニ於テ簡馬ノ舉アリ、關白秀
吉公、城樓ヨリ之ヲ觀ル、驪馬ニ跨ガリ、赤鞋ヲ鞞ニ繫ビ、馳
セ來ルモノアリ、秀吉公之ヲ左右ニ問フ、答テ曰ク、德川ノ
士成瀨小吉ナリ、其祿幾何ゾ、曰ク、俸米二千苞ナリ、秀吉公

歎ジテ曰ク。壯士ナリ。渠ヲシテ圖ヲ改メテ我ニ仕ヘシメ
 バ。五萬石ニ封セント。他日公以テ正成ニ告ゲテ其出仕ヲ
 勸メテ曰ク。汝ヲ能ク豊臣氏ニ事ヘバ。富貴立ドコロニ至
 ル。我モマタコレヲ悦バント。正成涙涕シテ曰ク。是何ノ言
 ゴヤ。臣不肖ナリト雖。臣豈ニ祿ヲ貪リテ君ヲ忘レシヤ。願
 クハ自殺以テ臣ガ赤心ヲ明カニセンノミト。後チ公群臣
 ニ謂テ曰ク。以テ三尺ノ孤ヲ託スベキモノハ正成也ト。
 櫻所子曰。當時群雄邦内ニ割據シ。戰鬪止ム時ナク。壯士驍
 將ノ軍ニ在ル。攻城ニハ先登ヲ争ヒ。陣ヲ陷レ敵ヲ卻ゾケ。
 以テ寡旗擒將ノ功ヲ奏セントシテ。前ムテ矢石ヲ冒カシ。
 湯火ノ難ヲ避ケザル者。重賞厚祿ノ為ニ使ハル。ニ非ス
 ヤ。正成ノ驍勇ナル。結髮軍ニ從ヒ。善ク寡旗擒將ノ功ヲ奏

セリ。而シテ豊公重祿ヲ以テ之ヲ招ギ。家康公マタ其仕ヲ
 勸ム。而シテ正成專ラ節義ヲ重ンジ。重祿ヲ輕ンジ。嘗腹以
 テ其赤心ヲ明カニセントス。廉潔ノ風操。凛乎トシテ秋霜
 ノ如シ。是德川氏士ヲ養フノ術。固ヨリ他ノ及ブ所ニアラ
 サルニ由ルモノナル可シト雖。臣抑亦三河武士ノ忠膽義
 肝。真ニ感歎スベキ者多シ。其君臣ノ情誼。水魚膠漆モ啻ナ
 ラサルモノアリ。數萬石ノ祿ヲ與ヘ以テ之ヲ招ゲドモ。敢
 テ去ラズ。宜ナル哉。德川氏ノ威武。天下マタ共ニ鋒ヲ争フ
 モノナク。三百昇平ノ基ヲ開キタル。嗚呼。正成ガ勇悍ナ
 ル。少年ニシテ奮戰敵ヲ卻クルノ功ヲ奏シタルニハ。猶及
 ブベシ。其食俸二千苞ニシテ。而シテ五萬石ノ厚祿ヲ固辭
 シタルニハ。及ブベカラサルナリ。德川氏ノ漸ク衰フヤ。廉

耻ノ風鳩之。貪汚ノ習長シ。俸祿微薄ナルモノ、如キハ固
ヨリ權門ニ阿諛シ。勢家ニ諂媚スルヲ以テ常トナスノミ
ナラズ。堂々タル有土ノ大諸侯ト雖モ、亦一官ヲ得一邑ヲ
取ランカタノニ、奔競馳驅スルニ至レリ。某侯老中某ニ賄
遣シテ、大老トナリ。某ト行クトキハ則チ敢テ並ビ行カズ
シテ雁行シ。以テ其意ニ媚ビタルヲノ如キ。家治公時代ノ
習弊ナリキ。宜ナル哉。再後數十年ニシテ、遂ニ祖宗ノ業ヲ
守ル丁アタハズシテ、太政ヲ王室ニ奉還スルニ至レリ。嗚
呼、貪ト兼トノ消長ハ、興敗理亂ノ由テ分ケル、所ナリ。鑑
ミサレバケンヤ。

第九 藪内匠先登ノ功ヲ争ハサリシ事

藪内匠初メ興次右衛門ト稱ス。中村一氏ニ仕テ、屢戰功ヲ

リ、内匠ノ入タル際、深沈ニシテ器局アリ。豊臣秀吉ノ北條

氏ヲ伐ツヤ、一氏ニ從テ山中ヲ攻メテ之ヲ拔ク。内匠先登
ス。渡邊了之二次グ了ガ背旗甚々大ナリ。秀吉公高キニ登
テ之ヲ望ミ見テ、以テ了ガ先登セリト為ス。了ヲ賞スルニ
先登ノ功ヲ以テス。内匠敢テ争ハズ。既ニシテ一氏二人ニ
祿各、三千石ヲ與ヘ、特ニ内匠ニ賜フルニ見米ヲ以テス。邦吾
依祿ノ制、大率十分ノ四、見米了心ニ平カナラズ。遂ニ仕テ
致シテ去ル。去ルニ臨ムデ、价ヲ内匠ニ遣ハシテ曰ク、願ハ
クハ子ト郊ニ相見ヘント。内匠即チ往ク。了馬上ニ偃月刀
ヲ横タヘ、内匠ヲ遠ヘ之ヲ勞シテ曰ク、吾將サニ遠行セン
トス。故人ト訣セズンバアル可ラズ。然レ氏故人中訣ヲナ
ス可キ者、獨リ卿アルノミト。因テ刀ヲ捧グテ曰ク、勲力別

意ヲ寓ス。卿幸ニ善クコレヲ蔵セヨト。言恭フシテ色怒ル。内匠神色自若トシテ。進ムデ刀ヲ受ケテ曰ク。吾モ亦マサニ卿ニ贖セントスト。乃チ佩アル所ノ刀ヲ脱シ之ニ與ヘテ別カル。人ミナ之ヲ壯ナリトス。

附テ云フ。慶長五年。家康公上杉氏ヲ討ツ。一氏疾篤シ。曰ク。方今吾カ兒子ヲ托スベキ者ハ。内府家康公ニアラズシテヲ指ス公ニアラズシテ誰ソト。乃チ内匠ヲシテ歎フ通セシム。公之ヲ許ス。一氏弟一榮ヲシテ軍ヲ率斗テ公ニ關東ニ從ハシム。既ニシテ石田三成等。兵ヲ美濃ニ起ス。一榮軍ニ還ル。内匠一榮ニ從テ美濃一至ル。池田輝政。福島正則等。將サニ岐阜ヲ攻メントス。内匠之ヲ聞テ曰ク。在昔豐臣氏ノ軍。我ガ兵毎ニ之レガ先タリト。乃チ武田久六。野一色賴母ト云々。軍監ニ請ル

テ先鋒タラシム。時ニ正則壘ニ在リ。驕豪氣ヲ負ビ。罵テ曰ク。一榮小兒。口吻猶小黃ナリ。敢テ先鋒タラント欲スルカ。詰且ノ事。正則ノ在ルアリト。之ヲ叱シテ退カシム。又六賴母相顧ミテ退ク。内匠憤激シテ去ルヲ肯ムセズ。正則ニ謂テ曰ク。往日式部ノ軍ニ在ルヤ。公特ニ一偏禰ノミ。今日式部ガ在ラサルヲ以テ。抗顔自大ナルハ。乃チ鳥ナキ。郷ハ蝙蝠タルナカラシヤト。正則大ニ怒リ。之ヲ斬ラント欲ス。衆救テ解ケタリ。聞ク者其抗直ヲ稱歎ス。九月十四日。一榮ニ從テ浮田石田二氏ノ兵ヲ株瀨川ニ撃テ之ヲ破ル。追テ川ヲ涉リ。伏ニ遇フテ利アラス。事平クニ及ンデ一氏既ニ卒ス。嗣子忠一年以ニシテ。故縱度ナク。其老臣横田内膳ヲ殺ス。舊臣服セズ。往々ニ棄テ去ル。内匠モ亦京師ニ隱

ル。初メ内匠福島正則ト先鋒ヲ争フヤ。細川忠興亦座ニ在
リ。深ク其抗直ヲ愛重ス。是ニ至テ聘ヲ厚フシテ之ヲ招致
シタリトゾ。

櫻所子曰。内匠ガ渡邊了ト訣スルヤ。神色自若タリ。内匠ガ
先鋒ヲ争フヤ。驍悍正則ノ如キ人ニ批シテ屈セズ。其膽勇
實ニ稱歎スベキモアリ。而シテ其此ノ如クナルヲ致セ
ル所以ノ本ハ何ゾヤ。他無シ其清廉寡欲ニシテ。先登ノ功
ヲモ争ハザルホドノ志操。常ニ其心ニ存スルヲ以テナリ。
人苟クモ貪汚ノ心アルトキハ。畏ルベカラザルヲ畏レ。
驚クベカラザルヲ驚キ。耻ツベキヲ知レドモ敢テ耻
チス。言フベキヲ知レドモ敢テ言ハス。遂ニ立仗ノ馬ノ
如ク。膝下ノ豹ノ如ク。凛然トシテ。慕ニ慕マズ。及如クナ

ルニ至ルモノナリ。其敢テ為シ敢テ言フ者。我特リ廉潔ニ
シテ貪汚ノ心ナキ人ニ於テ之ヲ見ル。内匠ノ如キハ則チ
其人ナリ。

第十 池田市郎兵衛功ナクシテ祿ヲ加フルヲ耻ヂタ
ル事

池田市郎兵衛ハ。寺澤廣高ノ臣ナリ。勇ヲ以テ聞ユ。初メ
諸國ニ遊ブ。窮スルヲ殊ニ甚シ。廣高之ヲ招聘シ。祿四百石
ヲ給ス。黒田長政。細川忠興。市郎兵衛ガ勇悍ナルヲ聞キ。皆
ナ。三千石ヲ以テ之ヲ招グ。辭シテ曰ク。小人登ク寺澤公ノ
知ル所トナル。恩負ムク可カラサルナリト。廣高亦益之ヲ
重ンジ。祿三千石ヲ與フ。市郎兵衛辭シテ曰ク。臣豈ニ祿ノ
多少ヲ論センヤ。唯君ガ眷遇ノ厚キニ感ズ。故ニ敢テ質ヲ

委人。今已ニ一邑ヲ受ク。衣食足レリ。之ヲ過グル以徃ハ。望
ム所ニアラズ。何況ヤ。未ダ功アラズシテ。祿ヲ加フルニ於
テ。テヤ。臣ガ深ク之ヲ耻ル所ナリト。終ニ辭シテ受ケズ。市
郎兵衛。未ダ來リ仕ヘサルヤ。嘗テ某軍ニ從テ殿タリ。一
人ノ劊ヲ被ハリテ。田間ニ仆ル。モノアリ。呼テ救ヒテ。求
ム。市郎兵衛扶ケテ。已レカ馬ニ騎セ。自ラ轡ヲ擘テ退ゾク。
時ニ敵三騎アリ來リ薄マル。市郎兵衛留マリ戰フ。一人ヲ
殪シ。二人ヲ走ラシメ。終ニ其人ヲ以テ免レシメタリ。後其
人黒田長政ニ事フ。一日長政廣高ニ請タリテ之ヲ語ル。廣
高市郎兵衛ヲ召シテ之ヲ問フ。市郎兵衛答テ曰ク。彼ノ人
ノ救ヒヲ求ムル時ニ方タリ。追騎來リセマル。臣自ラ以為
久。之ヲ救フトモ必ス。ス。兩以テ。天奈キ。未ダ得ズ。將サ

ニ棄テ、歸ラントス。又恐ラクハ或ハ我ニ後ル、者アリ
テ之ヲ救ハ、他日何ノ面目アリテカ彼レヲ見シヤ。寧ロ
共ニ死センノミト。已ムヲ得ズシテ之ヲ救ヘリ。今ニ至ラ
之ヲ愧ツト。長政益其真率ニシテ。外面ヲ塗飾ヒサルニ服
シ。則テ曰ク。是レ百首級ヲ得ルヨリモ難シト。又市郎兵衛
出ル毎ニ。必ス一甲篋ト。三日ノ糧ヲ齎ラス。近鄰ニ之クト
雖氏亦然カセリトゾ。

櫻所子曰。天下戦乱。英雄競ヒ起リ。志ヲ中原ニ得ント欲ス
ル者。四方ニ割據スルニ方リテハ。其曲直。臧否ヲ決スル所
ノモノハ。長槍大戟アルノミ。謂ツベシ。大壞極亂。倫常地ヲ
掃フト。此ノ如クナルヲ以テ。武士タルモノハ。各自ニ様ノ
多寡ヲ以テ去就ヲ決シ。待遇ノ厚薄ヲ以テ恩讎ヲ分カツ。

故ニ朝タニハ甲ニ從ヒ。暮ニハ乙ニ適ク。其重祿厚賞ヲ得
ント欲スルヤ。臣トノ其君ヲ弑スルモノコレアリ。子トシ
テ其父兄ヲ弑スルモノコレアリ。其父母妻子ヲ敵國ニ質
トスルガ如キハ。珍シカラザル事ニテアリキ。然ルニ市郎
兵衛ノ清介ナル。祿ヲ加フルカタメニ其恩ニ負ムカズ。マ
タ功ナクシテ祿ヲ加フルヲ以テ耻トナシテ受ケズ。而シ
テ夫ノ軍ニ殿シテ人ヲ救フ事ヲ問フアレバ。答フルニ止
ムヲ得ザルニ出タルノ真情ヲ以テシ。敢テ已レガ勇悍ニ
誇ラズ。當時戦乱ノ世ニハ。得易スカラザルノ士ナリ。宜ナ
ル哉。廣高ノ之ヲ重ムジ。而テ黒田細川ニ氏ガ之ヲ招ガン
トシタリシ。今ヤ王政古ハニ復シ。百度更革。粲然トシテ
曾觀ヲ一變ス。然リト雖。臣亦開明ト伴テ所弊アルヲ免

ハサレズ。人々利ヲ爭フテ義ヲ遺ケレ。得ルヲ貪テ耻ヲ思
ハサル。トハ。年二月ニ其甚シキヲ加フルモノ、如シ。夫ノ
儻然トシテ已レガ學識ヲ以テ人ニ驕リ。若クハ其世故ニ
鍊達シ。若クハ財産ノ饒カナルヲ示サントスルヨリシテ。
其衣服居室ヲ華麗ニシ。以テ人目ニ眩耀セントスルモノ。
肩ヲ比ベテ來リ踵ヲ接シテ往ク。所謂良賈ノ財ヲ蔵メテ
空キガ如クスル者甚ダ稀ナリ。而シテ虚ヲ以テ實トシシ。
空キヲ以テ盈ツルガ如クスルモノ。他ナシ名利ヲ釣ルノ
香餌トセンカタメニ。學識ナクシテ之アルガ如クシ。世故
ニ鍊達セズシテ。猶小熟達セルガ如クシ。財産乏シクシテ
富ムガ如クスルニ外カナラズ。其市郎兵衛ガカタメニ冷笑
セラレザルモノ幾ント希ナリ。

第十一 黑田彦左衛門功ヲ人ニ讓リタル事

黑田彦左衛門ハ、柳原康勝ノ臣ナリ。大坂ノ役、彦左衛門一
 甲士ヲ殪ス。其マサニ之ヲ載セントスルヤ、三枝勘兵衛ナ
 ルモノアリ。其友タリ。來テ其首級ヲ争ス。彦左衛門之ヲ奪
 棄シテ去ル。勘兵衛後口ヨリ之ヲ呼ブ。聞カザルマネシテ
 馳ス。又一敵將ヲ撃テ之ヲ殪ス。城陷ル。康勝ガ病ヲ以テ卒
 スルニ會ス。家康公久世廣之。坂部廣勝ヲシテ、柳原氏ガ家
 臣ノ功ヲ論ゼシム。勘兵衛首級ヲ呈シ。二使ニ謂テ曰ク、此
 レハ黑田彦左衛門ガ獲ル所ナリ。彼レ即チ棄テ、去ル。臣
 故ニ之ヲ拾フト。二使彦左衛門ヲ召シテ之ヲ問フ。對テ曰
 ク、知ラザレナリ。勘兵衛ガ曰ク、子ハ嚮キニ槍ニテ此敵ヲ
 殪セリ。吾後ハヨリテ呼ブ。子ハ即チ棄テ去ル。吾亦願子ヲ
 呼ブ。子何ゾ之ヲ知ラズト謂フヤト。彦左衛門曰ク、吾竟ニ
 知ラザルナリト。家康公之ヲ聞テ、深ク之ヲ嘉稱セラレタ
 リ。

櫻所子曰、戰國ノ士、善戰健闘。矢石ヲ冒カシテ、身命ヲ顧ミ
 ザル者ハ、他無シ。戰功ヲ立テ、榮達ヲ得ンガタメナリ。故
 ニ戰畢テ功ヲ争ヒ、賞ノ輕重ヲ視テ或ハ愉悦シ、或ハ不滿
 ヲ抱ク。夫ノ韓信ガ多々益辨ズルノ將畧アルニ誇リ、與劉
 破楚ノ大勲ヲ樹テタルホドニテスラ、猶ホ其眼ヲ注ク所
 ハ封土ノ榮ヲ取ランガタメノミ。故ニ項羽ノ凶ビタル所
 以テ論ジテハ、其不仁ニシテ人ヲ殺スヲ嗜ムトイハズシ
 テ、印利ルレト與ヘザルヲ以テシ。三寸ノ舌ヲ掉テ齊ノ七
 十城ヲ降ダセシ。鄆食其ガ功ヲ妬ミ、遂ニ齊王ヲシテ此ヲ

烹殺サシメテ顧ミズ。己レガ武カヲ以テ齊ヲ取ルニ及ビ
 テハ、其宮殿ノ偉麗ニシテ、城廓ノ宏壯ナルヲ喜ビ、假リニ
 齊王タラント欲スルニ至タレリ。其富榮ヲ求ムルニ汲々
 タル。此ノ如キアリ。况ヤ其智其略、淮陰ニ若カザル者ヲヤ
 ミナ分ニ應ジテ、賞ヲ求ムルガタメニ功ヲ争フハ、是戰國
 ノ武人ノ常態ナリ。視ヨ如此日ニ在テ功ニ誇ラサルハ、以
 テ天下後世ノ標準トナスベキモノナレバ、コソ魯論公治
 長ノ編一孟之反不伐、奔而殿、將入門、策其馬曰、非敢後也、馬
 不進也。トノ廿三字ヲ載録セルモノナルヲ、然レトモ孟之
 反ハ魯ノ大夫ナリ。此言ヲ作シテ、自ラ其功ヲ掩フ、亦深ク
 驚クニ足ラズ。夫ノ彦左衛門ハ一武夫ノ之、而シテ己レガ

甲士ヲ殘スノ功又推シテ、其友ニ讓ルヲ若キ、實ニ世ノ

孟之反ニ優サルモノト謂フモ可ナリ。亦以テ世ノ武人タ
 ルモノ、功ヲ争フテハ朋友ノ誼ヲ遺スレ、賞ヲ競フテハ
 長上ノ恩ニ背ムク等ノ事アルヲモ、敢テ顧省スルヲ知
 ラザル輩ヲシテ、愧死セシムルニ足レリ。然ラバ則チ彦左
 衛門ガ事、天下後世ノ模範トナシ。己ニ矜リ人ニ誇ルモノ
 ナシテ、警醒スル所アラシムベキナリ。

第十二 菴原助右衛門將首ヲ人ニ與ハタル事

菴原助右衛門ハ、駿河ノ人ナリ。初メ戸田氏ニ仕フ。後チ井
 伊直孝ニ仕ヒ、大坂ノ役ニ從フ。其木村重成ト若江ニ戰フ
 ヤ、我が前軍利アラズシテ、川手主水、山口伊豆等之ニ死ス。
 助右衛門衆ヲ勵マシ、力戰シテ之ヲ破リ、進ムテ重成ニ薄
 マル。直チニ十字槍ヲ以テ其母衣ヲ突キ、コレヲ淖中ニ倒

ス。從卒其首ヲ斬ル。直孝ノ近臣安藤長三郎ナルモノアリ。來テ其首ヲ乞フ。助右衛門、斬之ヲ予ヘテ曰ク。我が夫ノ人ト戰フヤ。彼レ自カラ名イフ。曰ク。木村重成ナリト。果シテ信ナリ。然レ氏重成ガ頭ヲ得ルハ。我ニ於テハ未タ以テ功ト為スニ足ラズ。子其レ以テ功ヲ為セト。長三郎喜躍シテ。將サニ其首ヲ持テ去ラントス。助右衛門呼デ之ニ謂テ曰ク。將軍甲首ヲ闕ミセラル。他ノ證左ナケレバ。則チ信セラレザルナリト。迺チ其母衣ヲ裂キ以テ首ヲ裹ミ。刀ヲ并セテ之ヲ予フ。家康公大ニ長三郎ガ功ヲ賞セラル。長三郎是ヲ以テ名ヲ著ハスニ至レリ。助右衛門ガ戚族此事ヲ聞キ悔ヒ且ツ惜ム。助右衛門坦然トノ曰ク。我が功ハ主公能ク之ヲ知ル。我復タ何ヲ力感マンヤト。其功ニ矜ラザル。概ネ此類ナリ。

櫻所子曰。木村重成ハ大坂ノ勇將ナリ。其首級ヲ得ルノ功。豈ニ童ニ尋常ノ首級十百ヲ獲ル者ト匹敵スルノミナラシヤ。然ルニ助右衛門苦戰力闘シテ敗潰セントスル勢ヲ復セシノミナラス。其敵將ヲ斃ス。非常ノ戰功アルモノト謂フベキナリ。然ルニ敵將ノ首級ヲ以テ人ニ與ヘ。賢子ヲシテ名ヲ成サシムル丁ヲ甘ムシ。已レハ翻テ戚族ノタメニ悔惜セラル。ニ至ルモ。主公能ク我が功ヲ知レリト謂テ。毫モ其意ヲ經ズ。其清廉ニシテ。功ニ矜コリ名ヲ繳メザル。古往今來。其比類ヲ見スト。謂フモ可ナリ。思フニ我邦慶元ノ時代ニ於テハ。戰亂日久フシテ。武門武士タルモノ。日夜戰鬪ニ從事シ。櫛風沐雨以テ常トナス。マタ書ヲ讀ミ理

ヲ講ズルニ暇マアラズ。而シテ其清廉剛毅ノ志操、凛乎トシテ秋霜ノ如ク。讀書明理ノ人ヲシテ、後ヘニ瞠若タラシムルモノ。往々ニシテ在リ。其功ヲ讓リ能ニ矜コラザル。孟子反其人ニ凌駕スルモノ亦鮮シトセズ。東方君子國ノ稱。決シテ過譽ニ非ザルナリ。唯望△此君子國ノ美風良習ヲシテ、永ク地ニ墮ツルノ期ナカラシメンコトヲ。

第十三 林新右衛門子孫ノタメニ祿ヲ食ムヲ否ミタル事

林新右衛門ハ、福島正則ニ任フ。正則ノ江戸ニ在テ罪ヲ得ルヤ、新右衛門奥家老タリ。正則ニ謂テ曰ク。若シ兵ノ侵逼スリノハ、公ハ自カラ圍リコトヲ為セ。閨愛ニ至テハ臣從ク之ヲ處置シ。火ヲ縱テ其屍ヲ匿クシ。而シテ後ヲニ臣

之ニ殉ゼン。君慮リヲ勞スルコト勿レト。正則ガ死ヲ嘗メテ信譽ニ徙サル、ニ及ンデ。新右衛門ハ、去テ京師ニ隱ル。是ヲ以テ名顯ハレ。諸侯争テ之ヲ召ス。辭シテ曰ク。新右衛門年七十二踰エ。復々用ユルニ足ラスト。故人或ハ子孫ノ計ヲ為スヲ勸ム。新右衛門曰ク。功無クシテ祿ヲ食ム。耻焉ヨリ大ナルハナシ。禍是ヨリ生ゼン。余我が子孫ヲシテ素餐ノ譏ヲ受ケシムルハ、子孫ヲ愛スルノ道ニアラサルナリト。竟ニ仕ヘズシテ京都ニ終ハル。

櫻所子曰。今ヤ舊來ノ弊事ヲ革除セラレ。門閥世襲ノ事ハ。昔日ノ談話トナリ了ハレリ。然レバ復々祿ヲ求メ以テ子孫ノ計ヲ為スモノアルベキ理ナシ。然リト雖モ世間人ノ父タル者ニシテ、其兒孫ヲシテ、富貴榮華ナラシメンコトヲ

欲スルハ。人ノ常情ナリ。而シテ其兒孫ノタメニ計畫スル所。其道ニ由ラズシテ。之レガ為メニ往々反對ノ結果ヲ得ルモノ多シ。即チ其衣食ヲ鮮麗エシテ。奢侈ニ習熟セシメ。其奴婢ヲシテ敬重セシメテ。驕傲自大ノ念ヲ增長セシメ。財ヲ積ミ産ヲ蓄ヒ。徒手坐食ニ安ムジ。怠惰放逸ニ陥ラシムルノ基ヲ為スノ類ナリ。然レバ則チ人ノ父タルモノ。其兒孫ヲ愛育スルノ道ヲ知ラズンバ。兒孫ヲ愛スル所ノ處措ハ。却テ他年兒孫ヲシテ。艱厄ニ遭際セシムルノ媒ト為ル丁アラシ。兒孫ヲ愛スルノ道。知ラズンバアルベカラズ。新右衛門ノ如キハ。子ヲ愛スルノ道ヲ知ルモノト謂フベキナリ。

第十四

成瀬正一 盈満ヲ以テ戒メト為シタル事

成瀬正一、吉右衛門ト稱ス。其伯ハ正義。仲ハ乃チ正一是ナリ。徳川氏ニ仕フ。兄弟並ビニ材武ヲ以テ聞コユ。三方原ノ役我ガ師利アラズ。正義即チ正一ヲシテ家康公ヲ迎護セシメ。危急ヲ脱ス。妙川長篠ノ諸戰。正一ミナ從テ功アリ。正一少キ時甲州ニ寄食シ。武田氏ノ軍事ヲ諳ニス。因テ毎ネニ甲ト接戦スルハ。必ズ正一ヲシテ軍事ヲ督セシム。甲陥ルニ及ビ。士民多ク我ニ歸ス。盖シ正一與リテカラアリ。甲人既ニ歸順シ。平岩親吉ヲ以テ軍代ト為シ。正一及ビ自下部定好ハ奉行ト為リ。新ニ號令ヲ布ク。正一乃チ武田氏ノ軍國圖籍ヲ獲テ之ヲ獻ズ。是ヲ鉅功ト為ス。徳川氏ノ霸府ヲ江戸ニ開クヤ。亦正一二命ジテ其政令ヲ定メシム。關カ原ノ役。秀忠將軍ニ從テ。旗奉行ト為ル。事平ク。伏見城。

留守ニ擢デラル。兼ネテ江州數郡ニ知タリ。元和元年特旨ヲ以テ權リニ龜山城ニ守タラシム。蓋シ遂ニ以テコレニ封ゼントスルナリ。正一辭シテ曰ク臣老タリ。能ク為ス。ナキナリ。且ツ臣ガ子弟ハ不肖ニシテ。並ヒニ國恩ヲ濫リ。ニス。常ニ負荷スル。能ハサル。懼ル。老臣ニ貽ス。ヲ以テ。ハリ。必ズ寵賚ヲ蒙ム。ラバ。則チ黃金以テ餘生ヲ養フ。ニ足ラシメタマヘト。家康公因テ黃金若干ヲ賜與シ。以テ其志ヲ成ス。公ノ既ニ薨ズルニ及ビ。正一薙髮シテ。復タ人事ニ干カラス。元和六年。壽八十三ニシテ浪華ニ没ス。撰所子曰。昔在中原。鹿ヲ逐ヒ。干戈相尋グ。此時ニ當リ。佐命ノ勲。其人ニ乏シカラズ。然リト雖。氏。概ネ攻城野戰ノ。塞

成而シナガラ全タシ。是豈ニ得難キ材ニ非ヤ。且ハ武人ノ美ヲ濟ス。創業守

武弁ノ士ハ。功ヲ争ヒ封ヲ覲フ。固ヨリ其常ナリ。獨リ正一深ク盈滿ヲ以テ戒メト為シ。足ル。丁ヲ知リ分ニ安ム。ジ。以テ其晩節ヲ全フス。此ヲ當時ニ求ムルモ。千百中ニシテ一ニヲ得易スカラス。况ヤ今時ハ。一資半俸ヲ得ルニ汲々タルモノ。憧々トシテ肩ヲ比ベ。踵ヲ接シテ來往シ。狷介ヲ以テ固陋トシ。廉潔ヲ目シテ迂僻トシ。利ニ敏キ者ヲ稱シテ。識量アリ材幹アルモノトスル時ナルヲヤ。縱使市ニ虎ヲ出スアルモ。恐ラクハ正一ノ如キ人ヲ見ル。丁能ハサル。バシ。然リ而シテ彼レハ清廉ヲ以テ。其晩節ヲ全フシ。此レハ貪名營利ノタメニ。往々禍機ヲ踏ムヲ免カレズ。亦以テ貪。無變化シテ。安危處ヲ異ニスルヲ見ルベシ。知ラス世人ハ。

食ニシテ危殆ナルヲ取ルカ。將夕、蕪ニシテ安全ナルヲ取ルカ。

第十五 市橋長璉ノ後室ノ清介ナリシ事

仁正寺ノ領主市橋伊豆守長璉ノ後室ハ平戸ノ城主松浦肥前守誠信ノ女ナリ。長璉ノ没スルニ及ビ、後室其子女ヲ訓ユル。恰カモ嚴父ノ如シ。閫政清肅タリ。又蕪介ニシテ節儉ヲ守リ。然カモ施惠ヲ好ム。凡ソ單寔ニシテ倚ル無キ者ニ遭フトキハ、所有ヲ捐テ、以テ之ヲ賙ハスニ至ル。孀居十七年、儉素愈堅シ。其居ル所頗ル卑陋ナリ。世子長昭嘗テ改メ作ラシムヲ請フ。後室可カズシテ曰ク、廣厦華屋ハ未亡人ノ宜キ所ニアラズ。且ツ吾久シク之ニ安ムズ。其陋タルヲ知ラザルナリト。其也。レ。節ニシテ、人無豊カナル蕪

潔ニシテ食ヲザル。率ネ此類ナリキ。享和二年ノ夏、疾ニ由テ歿ス。

櫻所子曰。物茂卿ガ政談ノ中ニ謂ヘルコトアリ。曰ク大名ノ妻ホド、増モナキモノハナシ云々ト。思フニ農工ノ家、子ヲ生ムデ尚ホ就學ノ日無シ。女ヲ生ム亦何ゾ傳女保母ニ就カシムルノ時アランヤ。然ルニ頃來、驕恣淫逸ノ婦女、毎ニ郷閭ニ在ラズ。縉紳ノ族ニ在ルハ何ゾヤ。郷閭ノ女ハ其勞ニ慣レ。其業ニ從事シ。初ノ嬌養、縱恣ノ事アルヲ知ラズ。嬌情性ト成ルニ非ズ。故ニ嫁シテ後チ、亦能ク自ラ辛勤勞動ス。特リ縉紳貴豪ノ女ハ、平時之ヲ視ルコト、掌珠ノ如クシ。閨中一呼スレバ、堂上百應ズ。裁縫織紵ノ何事タルヲ知ラズ。中饋ノ勞ノ如何ヲ解セズ。琴棋以テ永日ヲ消シ。巾箱

本ヲ讀ムテ秋夜ノ長キヲ覺ヘズ。朝夕ニ八日高フシテ未
 ダ起キズ。夕べニハ更闌ナルモ未ダ寢ネズ。華麗ノ衣ヲ被。
 鮮美ノ食ヲ食ヒ。驕縱度ナキモノ多シ。然ルニ仁正寺候ノ
 後室。身候家ニ生長シ。能ク儉素ヲ守リ。廉潔ヲ肯トシ。子女
 ヲ訓ユル法アリ。其己レニ節約ニシテ。人ニ豐厚ナルモノ。
 豈ニ之ヲ賢婦人ト謂ハザル可ケンヤ。我邦女教ノ振ハザ
 ルヲ久シ。而シテ家政ヲ整理シ。兒女ヲ訓誨スル。妻タリ母
 タルモノ、カ多キニ居ル。今世ノ貴豪。妻ヲ娶ルニ其色ヲ
 擇ムデ。マタ其他ヲ顧ミザルモノ、如シ。其家政ヲ整理シ。
 兒女ヲ訓誨スルニ至テハ。果シテ如何ナランカ。謝肇淛ガ
 言ニ曰ク。余四方ノ遊官。京師ノ女ヲ取テ妾ト為ス者ヲ見
 ルニ。皆資斧ヲ罄クシテ。以テ口腹ニ供シ。精神ヲ散シテ以
 テ其欲ヲ遂グ。故里ニ歸ルニ及ムデハ。則ク撒潑シテ歸ル
 ルヲ求ム。父母兄弟。群然トシテ置競ス。其勤儉ニシテ家
 ニ幹タルモノヲ求ムレド。千百人中ニ一ニヲ得ルヲ能ハ
 ズト。又曰ク。夫子女子小人ヲ謂テ養ヒ難シト為ス。書ニ紂
 ガ婦言ヲ用ユルヲ稱シ。詩ニ哲婦城ヲ傾クト稱ス。凡ソ
 婦人女子ノ性。一ノ佳ナル者ナシ。妬ナリ。嗔ナリ。妬ナリ。嬾
 ナリ。拙ナリ。愚ナリ。酷ナリ。怒リ易キナリ。疑ヒ多キナリ。輕
 シク信ズルナリ。瑣屑ナルナリ。忌諱ナリ。鬼ヲ好ムナリ。愛
 ニ溺ル、ナリト。我今ノ婦人女子ニ於テモ。亦マサニ斯言
 ヲ以テ移評セントス。而シテ市橋氏ノ後室。松浦氏ノ如キ
 賢婦人ニ至テハ。真ニ千萬中ニ一モコレアラザルベシ。蓋
 シコレアラン吾未ダコレヲ見ザルナリ。

テ其欲ヲ遂グ。故里ニ歸ルニ及ムデハ。則ク撒潑シテ歸ル
 ルヲ求ム。父母兄弟。群然トシテ置競ス。其勤儉ニシテ家
 ニ幹タルモノヲ求ムレド。千百人中ニ一ニヲ得ルヲ能ハ
 ズト。又曰ク。夫子女子小人ヲ謂テ養ヒ難シト為ス。書ニ紂
 ガ婦言ヲ用ユルヲ稱シ。詩ニ哲婦城ヲ傾クト稱ス。凡ソ
 婦人女子ノ性。一ノ佳ナル者ナシ。妬ナリ。嗔ナリ。妬ナリ。嬾
 ナリ。拙ナリ。愚ナリ。酷ナリ。怒リ易キナリ。疑ヒ多キナリ。輕
 シク信ズルナリ。瑣屑ナルナリ。忌諱ナリ。鬼ヲ好ムナリ。愛
 ニ溺ル、ナリト。我今ノ婦人女子ニ於テモ。亦マサニ斯言
 ヲ以テ移評セントス。而シテ市橋氏ノ後室。松浦氏ノ如キ
 賢婦人ニ至テハ。真ニ千萬中ニ一モコレアラザルベシ。蓋
 シコレアラン吾未ダコレヲ見ザルナリ。

第十六 佐藤麿也伯母ノ贈ル所ノ金ヲ辭シテ受ケザ
リシ事

佐藤麿也周軒ト號ス武藏ノ人ナリ世武ヲ以テ顯ハル高
祖新九郎信清織田右府ニ仕ヘ戰功アリ麿也ニ至テ始メ
テ文ヲ好ミ後藤松軒ノ門ニ學ブ麿也小少ヨリ其志節ヲ
堅フス嘗テ蒯緤京ニ遊フ便道伏水ニ過リ伯母ヲ省ス伯
母ハ田光氏ノ母タリ家頗ル富ム麿也ガ至ルヲ喜ビ且ツ
篤志ヲ感シ乃チ金百兩ヲ出シ之ヲ贈テ曰ク汝ガ此ヲ以
テ學費トセヨト麿也辭シテ受ケズ伯母曰ク勿レ我子放
蕩ニシテ緩マケニ産ヲ傾ムケントス其濫費以テ燕樂ニ
供センヨリハ寧ロ汝ガニ與ヘテ以テ善ヲ為スノ用トセ
ント麿也益辭シテ曰ク一家ノ主人業已ニ此ノ如シ安ク

別ニ儲フル所アリ以テ不虞ニ備ヘザルベケンヤ余一介
ハ書生賞ナキハ固ヨリ分ナルノミ但大母ハ惠其賜ヲ拜
スルヤ多シト遂ニ一金ヲ受ケズシテ去ル其學成ルニ及
ビ柳澤氏新ニ候ニ封セラレ廣ク名士ヲ招グ乃チ秩三百
石ヲ以テ麿也ヲ聘ス麿也應ゼズ蓋シ其仕アルニ苟クモ
セザルモノアルヲ以テナリ何クモナク松軒ガ薦メニ因
テ謁ヲ巖村侯ニ釋久俸二十口ヲ支ルハミ麿也人トナリ
廉直ニシテ嚴毅ナリ初メ儒ヲ以テ仕ヘ後チ世子ニ傳々
リ世子ノ動作舉止悉ク規スルニ正ヲ以テス世子嘗テ齋
南ニ就テ一窓ヲ鑿ント欲ス麿也肯ンゼズシテ曰ク此レ
易事ノミ然リ而シテ世子タル者ハ凡ソ百マサニ父侯ノ
與フル所ヲ慎守スベシ而シテ別ニ嗜好アルベカラズ令

世子年少シ。安ヲ問ヒ膳ヲ視ルハ則テ論ナシ。方ニ且ツ學
ヲ講ジ武ヲ演シ。且タコレ暇アテズ。而シテ乃チ心ヲ無盡
ニ馳ス。或ハ遂ニ土木園池ノ好ヲ啓クナカラシヤ。故ニ事
易シト雖也。敢テ命ヲ奉セズト。世子悄然トシテ曰ク。卿カ
言是ナリ。請フ之ヲ守ラント。世子既ニ立チ。左右ノ少年ヲ
聚メテ嬉戲スルコト度ナシ。塵也。屢諫ムレ也。聽カレス。遂
ニ職ヲ辭スルヲ乞フ。老臣之ヲ白ス。侯瞿然トシテ曰ク。吾
過テリ。我レ頑童ヲ昵ミ。耆徳ヲ遠ザク。此レ彼レカ辭セン
ト欲スル所以ナリ。吾マサニ過チヲ改ント欲ス。卿等盡ソ
我ガタメニ之ヲ言ハサルヤト。既ニシテ侯懲艾徳ヲ脩ム。
勵精治ヲ圖ル。乃チ大ニ塵也ヲ用ヒ。擢テ、老職ニ陞シ。祿
ヲ増シテ三百石ニ至ル。是時巖村ノ政。嚴ニ紀綱ヲ立テ。淳

ク信義ヲ守リ。小大ノ事。必ズ衆ト之ヲ議ス。智者獨リ端ニ
スルヲ得ズ。愚者モ亦過チヲ寡フスルヲ得タリ。是ヲ以
テ吏姦慝ナク。民盜賊ナシ。風俗淳樸ニシテ。上下和輯ス。侯
晋ムデ閭老ニ拜セラル。一時輿稱アリ。實ニ塵也。與リテカ
アリト云フ。或時候ノ妾家子ヲ擧グ。妾ヲ賀スル者。ミナ其
侯家ニ母タルノ重キヲ以テス。獨リ塵也。内ニ入り。毅然ト
シテ色ヲ正フシテ曰ク。爾チ今ヨリ後チ。子ハルヲ恃ムテ
以テ驕リ肆ナルコトナカレ。侯家ノ禍福。茲ニアリ。爾チガ
禍福モ亦茲ニ在リト。塵ニ在ル者。悚然トシテ容テヲ改ム。
塵也。カ巖毅廉直ナル。率ネ此類ナリキ。

櫻所子曰。周軒初メ書劍京ニ遊ブ。伯母ガ贈ル所百兩ノ金
ヲ辭シテ受ケズ。安ゾ別ニ儲フル所アリ。以テ不虞ニ備ヘ

ナル可ケンヤト謂フ。其業成ルニ及ビ、柳澤侯ノ祿三百石ヲ以テ之ヲ聘スレ氏應セズ。而シテ巖村侯ニ仕フル俸二十口。世子ヲ規スル巖正ニシテ、其傳タルニ耻チズ。其既ニ立テ侯トナルニ及ビ、諫メテ聽カレザレバ則チ職ヲ辭セント乞ヒ、能ク世子ヲシテ悔改セシメ、侯ノ側室ノ子ニ生ム。マタ子アルヲ恃ムテ驕肆ニスルコトヲ戒ム。其巖毅廉直、亦世ニ匹儔寡クナシ。而シテ周軒ガ褐ヲ釋ク後チノ事マ、ソ其伯母ガ贈クル所ノ金ヲ辭スルノ日ニ於テ之ヲ視ル。孟子曰日月有明、容光必照ト。周軒之謂ナリ。

第十七 伊藤一元ガ少欲知足ナリシ事

伊藤一元ハ冠峰ト號ス。伊勢ノ人ナリ。家世巨商ニシテ、絹袖ヲ賣ルヲ以テ業ト爲ス。少ヲシテ質素ヲ尚トシ、儀操ヲ

修メズ。日夜書ヲ讀ム。極メテ勢利ニ淡ク。簿書計度ノ煩ヲ厭ヒ。其生産ヲ以テ、之ヲ兄弟ニ委シ。名護屋ニ遊學シ。業ヲ元淡淵ノ門ニ受ク。又醫事ヲ好ミ。自カラ處方ヲ驗ス。名護屋ニ在ル丁五年。後テ諸列ニ遊遊シ。晚年美濃ノ笠松ニ隱居セリ。其名護屋ニ在ル時、南宮喬卿ト情交尤モ密也。元淡淵ガ東行シタル後チ、其門人ノ經義ニ從事スル者ハ、半ハ喬卿ヲ推シ。歌詩ヲ操練スル者ハ、半ハ冠峰ヲ敲ク。醫生玄澤ナル者アリ。家資富饒ニシテ頗ル學ニ厚ク。冠峰ト友トシ善シ。久シク冠峰ガ才ヲ愛シ。妹ヲ以テ之ニ妻ハス。益冠峰ヲシテ其業ヲ修メシメ、之ヲ贊襄ス。玄澤ノ意蓋シ其歌詩ヲ以テ喬卿ヲ壓倒セントスルニ在リ。冠峰自カラ其意ヲ知り、眼疾アリト稱シテ、講業ヲ休置シ。其門人ヲシテ、喬

卿ニ從學セシム。遠ニ辭シテ郷ニ歸リ。諸列ニ漫遊ス。人ニ
 ナ其虛退ナルヲ稱セリ。望松里ハ名護屋ヲ去ルコト數里
 ニシテ近シ。冠峯喬卿ト襟情紆意。舊ニ比スレバ益暱シ。明
 和己丑ノ歲。喬卿素名ヨリ江戸ニ移ル。然レ氏猶ホ其妻子
 ヲ以テ之ヲ名護屋ノ族入ニ托ス。是ヨリ先キ妻子ニ約ス
 ラク、一年ヲ過グレバ人ヲシテ必ズ迎ヘシメント。後チ喬
 卿火災ニ遭ヒ。盡ク資給ヲ喪ヒ。經過スルコト既ニ二年餘ニ
 シテ之ヲ迎フルコト能ハズ。甚ダ其計ニ窮ス。妻子モ亦數
 百里ヲ隔テ、窮迫ノ音耗ヲ聞クニ堪ズ。冠峯妻子ノ意ヲ
 憐憐シ。之ヲシテ械カニ行裝ヲ治メシム。蓋シ尾刈ヨリ江
 戸ニ至ル。驛程數十日。資錢一夫錢五貫文有ニ非レバ。以テ
 其旅費ヲ購フニ足ラズ。然ルヲ况ヤ婦兒三四人。家ヲ舉ゲ
 テ行ニ就クヲヤ。冠峯家固ヨリ窮貧ナレハ。田宅ヲ典當シ
 家財ヲ賣却シ。金十五兩ヲ得テ。之ヲ喬卿ガ妻子ニ與ヘ。數
 人ヲシテ江戸ニ護送セシム。喬卿懇到ヲ謝シ。其金ヲ復ヘ
 ス。冠峯辭シテ受ケズ。冠峯ガ天資謙慮ニシテ。才學頗ル富
 ミ。其標格意氣。並ニ一世ヲ推倒スルニ足ル。喬卿屢江戸ニ
 徒往シ。教授シテ業ト為ンコトヲ勸ムレ氏肯カス。又紀平
 洲之ヲ尾刈侯ニ薦メテ儒員トセント欲スレ氏又肯カス。
 辭シテ曰ク。顏ヲ托グテ儒者ト稱スルハ。吾ガ能ク及ブ所
 ニアラザルナリト。冠峯常ニ謂フ。居ハ以テ膝ヲ容ル。ニ
 足リ。衣ハ以テ體ヲ覆フニ足リ。食ハ以テ腹ヲ滿タスニ足
 リ。樂ハ以テ憂ヲ忘ル。ニ足ル。我日ニ安シ。豈其餘ヲ願
 ハンヤト。冠峯天明中年七十餘ニシテ歿ス。江北海嘗テ冠

峯ヲ評シテ曰ク。冠峯ヲシテ身都下ニ在テ。藝苑ニ馳騁セシメバ。乃チ其名方今ノ赤羽護洲ノ諸子ニ護ラズト。櫻所子曰。冠峯ガ謙虛恬退ニシテ。然カモ友誼ニ厚キ。古來其匹儔スクナシト謂フ可シ。今世ノ人士ガ為ス所ヲ視ルニ。學藝未ダ鍊熟ノ域ニ至ラズシテ。早ク之ヲ嚮ガンヨトヲ欲シ。タマタマ其虛聲空譽ヲ博シ得ルニ及ビ。已レト其聲譽ヲヒトシフセントスル者アレバ。舊知親友ト雖モ之ヲ擠倒セントスル類。吾ガ屢見聞スル所ナリ。何況ヤ其妻子ヲ憐憐シ。已レガ田宅ヲ典シ。已レガ家財ヲ賣リ。以テ旅費ヲ辦ズルガ如キモノアラシヤ。親友舊知ト雖モ。僅々數十圓ノタメニ。原告トナリテ此ヲ法衙ニ訟フルアリ。或ハ負債ヲ他ニ募ラントスルニ方リ。親友ヲシテ其保證人トラシメ。債主ノ督責急ナルニ及ベバ。則チ已レガ親愛スル所ノ知友ヲシテ。之ヲ辯償セザルベカラザルノ義務ヲ擔ハシメ。已ハ知ラザルモノ。如クスル等。今世交態ノ浮薄ナル一斑ヲ見ルベシ。是等ノ所為ヲ耻ダザルノミナラズ。顔ヲ枕ゲテ社會上等ノ人士ヲ以テ自ラ居ル輩。懂々トシテ肩ヲ比ベテ相往來ス。斯輩父兄ヲ欺騙シ。朋友ヲ朘剥ス。白日劫ヲ行フモノト比スルモ亦可ナリ。若シ冠峯ヲシテ斯輩ヲ評セシメバ。將タ之ヲ何トカ謂フ。

第十八 中井積徳ガ韓愈ヲ賤ミタル事

中井積徳。願軒ト號ス。大坂ノ人ナリ。志氣高尚ニシテ。苟クモ合セズ。安リニ戸ヲ出デズ。自ラ幽人ト號ス。隱居放言ヲ以テ自ラ居ル。談論奇警ニシテ。動モスレバ。輒チ人聽ヲ駭

カス。姿貌魁秀。器宇曠邁ニシテ。一世ヲ睨視ス。少ヨリ老ニ至ルマテ。硤々トシテ。經旨ヲ考索シ。手卷ヲ釋カス。始メ七經離題畧ヲ著ハシ。晚ニ又七經逢原ヲ著ハシ。經旨ヲ發揮シ。益精緻ヲ致ス。世匹儔罕レナリ。巋然トシテ別ニ一家言ヲ為ス。而シテ人ニ知ラル。コトヲ求メズ。塙檢校保巳一トイフ者アリ。國學ノ教授ニ擢テラル。嘗テ大坂ニ遊ビ。履軒ヲ見ント欲ス。市尹街長ニ命ジテ紹介ヲ為サシム。街長以テ告グ。履軒可カズシテ曰ク。我聞ク塙氏ハ。源語勢語等ノ書ニ沈溺スト。我ト道同ジカラサレバ則チ與モニ談ズベキ者ナシト。固辭シテ見ヘズ。市尹某亦履軒ヲ欽慕シ。禮ヲ厚フシテ之ヲ召ス。履軒辭シテ使者ヲ見ズ。使者反命ス。市尹歎ジテ曰ク。所謂天子得テ臣トセズ。諸侯得テ友トセ

ズトハ履軒ノ謂ナリ。其吾使ヲ見サル亦宜ナリト。履軒偶骨董鋪ヲ過ギ。古鐔ヲ見テ。其價ヲ問ハズ。四方銀ヲ以テ之ヲ買フ。鋪主曰ク。此物價廉ナリ。何ゾ此ノ如クナルヲセンヤト。履軒強テ之ヲ與ヘ。鐔ヲ獲テ以テ還ル。門人一見シテ歎ジテ曰ク。嘉品ナリ。請フ八方銀ヲ以テ之ヲ獲ント。許サズ。固ク請フ。乃チ之ヲ許ス。履軒是ニ於テ其加フルトコロ。四方銀ヲ懷口ニシ。往テ鋪主ニ與フ。鋪主恠ムデ之ニ迹シ。審カニ名居ヲ察シ。其碩儒履軒タルヲ知ル。以為ク金ヲ還ス比。必ズ受ケザラント。鮮魚ヲ籃ニシ。朝夕ニ其家ニ投ジテ去ル。又松平和泉守使ヲ遣ハシテ履軒ヲ聘ス。則チ壁櫺ニ入テ之ヲ避ケテ見ヘズ。古賀精里之ヲ評シテ曰ク。履軒ハ天下ノ偉人ナリ。段干木ニ似タリト。履軒嘗テ韓愈カ

三たび宰相ニ上ツルハ書ヲ目シテ乞食ト謂フ其仕進ヲ求ムルニ急ナル可兒ハ物ヲ乞フニ必タルヲ賤シタルナリトゾ。

櫻所子曰積徳ガ學問文章ニ就テ評スルハ暫ク措キ其猶介廉潔ナルニ至テハ近世ノ儒者ニ於テ儔類太ダ稀ナルノミナラズ漢唐ノ昔ニ溯ルモ猶ホ絶テ無クシテ僅カニ有ルモノナリトス夫ノ韓愈ノ若キハ一代ノ文宗ニシテ仕進ヲ求ムルニ急ニシテ而シテ其富貴榮華ニ汲々タル真ニ冷笑スルニ堪タリ然ルニ世ノ儒士タルモノ之ヲ仰望シテ泰山北斗ノ如クス宜ナル哉歐學ノ一たび東邦ニ行ハレテヨリ儒術漸ク衰廢シ自治自主ノ説日ニ盛ナルニ至リ仁義道德ノ説ヲモ併セテ世ノ士君子ノ之ヲ模範

トスルモノ鮮キニ至レルコトヲ是其道ノ罪ニアラス實ニ儒士タルモノ、卑劣ニシテ利祿ヲ干ムルニ急ニシテ、簞瓢其樂ミヲアラタメサルホドノ道德ナキヲ以テナリ。積徳獨リ群儒ノ中ニ屹立シテ名奔利走ノ輩ト伍スルコトヲセズ他ノ韓愈ヲ仰グテ泰斗當ナラザルニモ拘ハラズ其三たび宰相ニ上ルノ文ヲ目シテ乞食支ト謂フガ如キ大ニ尋常腐儒ト同視スベカラザルモノアリ而シテ其學識ハ自ラ掩ヒ晦マス能ハザルモノアリテ當時履軒ノ名遠近ニ稱セラレ今世ノ人士口ヲ開ケバ輒チ曰フ交際ヲ廣ク社會ニ求メ以テ智識ヲ交換スト而シテ其會同シテ交リヲ結ブヲ觀ルニ酒ヲ戰ハシ碁ヲ圍ミ或ハ妓ヲ聘シテ歡ヲ助ク言語喧嘩主客各辭セズシテ散ジ去ル何ノ

知識ヲカ交換スルヤ。我が得テ解セザル所ナリ。而シテ其
交際ヲ求ムルコト。如此ソレ汲々タルモ。其世ニ知ラル、
コトハ。妾リニ戸ヲ出テズ。幽人ト稱セル中井積徳ニ及バ
ガルコト遠シ。且ツ恆ニ自治獨立ヲ談ズルニモ似ズ。其所
為或ハ積徳ガ嘲笑セル。韓愈ノ乞食文ニ類スルアリ。是ニ
由テ之ヲ觀レバ。積徳ガ廉介ナル。其守操深ク重ンスベキ
者アルナリ。

第十九 仙石氏ガ清廉剛勇ナリシ事

三都ノ地。妓院ニ隸セス。市井ニ雜居シテ。淫ヲ賣ルモノ。俗
ニ稱シテ地獄ト曰フ。丈那ニ所謂私窠子ナルモノナリ。謂
ソベシ廉耻地ヲ掃フト。然レトモ無告ノ民窮鋒髓ニ入り。
此ニ墮落シ。僅カニ以テ活ヲ取ル。マタ憫ムベキモノアリ。

今ヲ距ル廿餘年。浪華富商ノ子等々父ノ命ヲ以テ京都ニ
貿易ス。二百金ヲ囊ニシテ。某街ナル地獄ノ家ニ投宿ス。去
ルニ臨ムテ囊ヲ遺ル。途ニシテ之ヲ覺トル。自ラ以為ク。彼
レ淫ヲ賣テ世ヲ汚ル。何ゾ人間マタ理義アルヲ知ラン
ヤ。回リ求ムルハ痴ナリト。歸テ之ヲ監奴ニ謀カリ。以テ之
ヲ補ハシム。監奴竊カニ欺シテ以為ク。郎君金ヲ視ルコト
土塊ノ如クス。實ニ富家ノ郎君ナリ。然リト雖モ吾儕金ヲ
以テ生活ヲ為ス。今一タビ探求スルコトヲモ試ミズシテ。
二百金ヲ不問ニ措クハ。暴殄ニ近カシ。抑モ亦別ニ費ス所
アリ。之ヲ此ニ託スルモ亦未ダ知ルベカラサルナリト後
々事ヲ以テ京師ニ往キ。其家ヲ遇ギテ痛ク。從容トシテ如
ニ語テ曰ク。吾ハ浪華ノ客ナリ。某月某日。吾友曾テ來リ

宿シ。為メニ汝チガ光麗ナルヲ見。喜心動キ以テ衷
ル所ナリ。知ラス汝チ其人チ記スルヤ否ヤト。因テ詳カニ
其風貌年齒ヲ説ク。女驚テ曰ク。信ニ然カリ。妾能ク之ヲ記
ス。遺ス所ノ物アリ君聞知ルヤ否ヤト。監奴曰ク。實ハ我ガ
郎君タリ。乃チ之ニ實ヲ告ゲ且ツ其素章ヲ語ル。女曰ク果
シテ信ナリ。里巷姓名ヲ審カニセザレバ。未ダ之ヲ致スニ
由シアラス。母氏ニ白フシ。深ク蔵メ以テ其再ビ來ルヲ待
ツト。出シテ之ヲ呈ス。監奴驚喜シテ謝シテ曰ク。覆水盆ニ
還ル。一ニ阿嬢ノ厚誼ニ出ツト。乃チ金三十兩ヲ把テ之ヲ
與フ。女卻ゾケテ曰ク。君ニ出デ、君ニ歸ル。妾ニ何アラン
ヤ。敢テ辭スト。之ヲ強ユレトモ竟ニ受ケズ。歸ルニ臨ムデ
之ヲ戸隙ノ投シテ走り出テ。家ニ逃リ具シ。

主翁泣嗟シテ曰ク。是眞ニ呪中ノ蓮華ナリ。而シテ薄命ト
ニ至ルハ眞ニ閔ムベシ。我取テ以テ児ガ小妻トシ。母子ヲ
シテ永ク苦境ヲ脱離セシメント欲ス。汝チ試ミニ児ガ意
ヲ候ガベト。乃チ告グルニ其言ヲ以テス。欣然トシテ之ニ
從フ。是ニ於テ往テ母子ニ謀ル。曰ク。穢褻生ヲ為ス。何ゾ収
録ヲ導カシムルニ足ラシヤ。敢テ辭スト。強テ而シテ後チ
聽ルス。輒チ相拉シテ還リ。為メニ別房ヲ某街ニ營ミ。土木
園庭頗ル瑰麗ヲ極ム。一夕虎賊五人。戸ヲ排シテ直チニ入
リ。奴婢ヲ縛シテ及チ母ノ胸腹ニ擬シ。以テ金ヲ出スヲ責
ム。女間ヲ伺ガヒ躲去シ。薙刀ヲ提ゲ來リ。立ドコロニ二人
ヲ斬殺ス。三匪畏怖シテ逸ス。詰朝之ヲ主翁ニ報ジ。狀ヲ具
シテ市尹ニ白フス。尹之ヲ召シテ逐項檢問シ。其父ト貫籍

トニ及ビ。女滿面紅ヲ潮シテ曰ク。妍毛僅カニ乾キ。母抱テ
郷ヲ去リ。蓬轉萍移以テ此ニ至ル。故ヲ以テ毫モ省記セズ。
幸ニ置テ問フコト勿レト。吏曰ク。是緊要ノ事ナリ。法ニ於
テ刪抹スルヲ得ズ。況ヤ汝ガ母アリ。豈ニ之ヲ知ラサルノ
理アラシヤ。女乃チ慘然トシテ頭ヲ垂レテ曰ク。妾ガ父ハ
故出石ノ家老仙石某トナス。父就命ノ日。闔家放タル。時ニ
妾母ノ懷ニ在リ。沫離困頓。備サニ辛楚ヲ嘗ム。母老テ善ク
疾ム。妾長ジテ無能ナリ。反哺スルニ術無ク。身ヲ汚ガス。此
ニ至リ。以テ辱メテ祖先ニ貽ルト。淚言ト、モニ下ル。聞ク
モノ為メニ惻然タリ。研審査報。事既ニ畢リ。吏竊カニ主翁
ニ語りテ曰ク。清廉嘉ニス可シ。其勇男子ニ軼グ。洵ニ以テ
父ノ惡ヲ掩フニ足レリ。汝汝境ニ警之ヲ親ヨト。主翁始
メテ巨室ノ子タルヲ知り。敢メテ禮ヲ具ヒテ以テ子ノ婦
ト為ス。事安政四年ニ在リト云フ。

櫻所予曰。往古來今。貴トナク賤トナク。其形神ヲ驅役シ。營
營トシテ懈ラザル所以ノ者。究竟スル所利ノタメニアラ
ザルハナシ。故ニ貨殖傳ニ曰ク。賢人深ク廊廟ニ謀カリ。朝
廷ニ論議シ。信ヲ守リ節ニ死シ。隱居巖穴ノ士。名ノ為メニ
高ブル者。安ニカ歸スルヤ。富厚ニ歸スルナリト。又曰ク。壯
士軍ニ在リ。城ヲ攻メテ先登シ。陣ヲ陷レ敵ヲ卻ヅケ。將ヲ
斬リ旗ヲ奪リ。前ムテ矢石ヲ蒙ムリ。湯火ノ難ヲ避ケザル
者ハ。重賞ノ為メニ使ハル。ナリ。其閭巷ニ在ル少年。攻剽
椎埋。人ヲ劫カシ奸ヲ作シ。冢ヲ掘リ幣ヲ鑄。任俠并兼。交リ
ヲ借リ讐ヲ報ジ。幽隱ヲ篡逐シ。法禁ヲ避ケス。死地ニ走ル

コト驚スルガ如シ。其實ハミナ財用ノタメノミ。今夫ノ趙
女鄭姬。形容ヲ設ケ。鳴琴ヲ撰シ。長袂ヲ揄ケ。利屣ヲ躡ミ。目
挑ミ心招ギ。出ルコトハ千里ヲ遠シトセズ。老少ヲ擇バザ
ルモノハ。富厚ニ奔ルナリ。游閑公子。冠劍ヲ飾ガリ。車騎ヲ
連ヌルモ亦富貴ノタメニ容テヅクルナリ。弋射漁獵。晨夜
ヲ犯カシ。霜雪ヲ冒カシ。阡谷ニ馳セ。猛獸ノ害ヲ避ケザル
ハ。味ヲ得ルガタメナリ。博戲馳逐。雞ヲ闘ハシ。狗ヲ走ラシ。
色ヲ作シテ相矜リ。必ズ勝ヲ争フモノ。失負ヲ重シズレバ
ナリ。醫方諸食伎術ノ人。神ヲ焦カシ。能ヲ極ムルハ。重糶ノ
タメナリ。吏士ガ文ヲ舞ハシ法ヲ弄シ。章ヲ刻サミ書ヲ偽
ハリ。刀鋸ノ誅ヲ避ケザルモノハ。賂遺ニ没スルナリ。又曰
ク。故ニ曰フ天下熙々トシテ。皆利ヲ為スニ來リ。天下壞々

トシテ。皆利ヲ為メテ往ク。夫ハ奇乘ノ王。萬家ノ侯。百室ノ
君。尚ホ貧ヲ患フルアリ。而ルヲ況ヤ匹夫編戶ノ民ヲヤト。
是真ニ上下貴賤ニ論無ク。智愚巧拙ヲ問ハズ。富利ノタメ
ニ汨々タル形態ヲ描寫シテ。遺漏ナシト謂フヘシ。此ノ如
クナルヲ以テ。南陽ノ魯褒ハ。錢神論ヲ作り。其中ニ於テ謂
ヘルコトアリ。曰ク。錢ノ體タル乾坤ノ象アリ。之ヲ親ム
兄ノ如クス。字シテ孔方ト曰フ。德無クシテ尊ク。勢ヒ無ク
シテ熱ス。金門ヲ排シテ紫闥ニ入り。危モ安スカラシム可
ク。死モ活セシム可ク。貴モ賤ナラシムベク。生モ殺サシム
可シ。是故ニ忿争錢ニアラザレバ勝タズ。幽滯錢ニ非レバ
拔ケズ。怨讐錢ニ非レバ解ケズ。令聞錢ニ非レバ發セズ。洛
中ノ朱衣。當途ノ士。我ガ家兄ヲ愛シテ皆ナレバムコトナシ。

我ノ手ヲ執リ。我ヲ抱テ終始ス。凡ソ今ノ人ハ惟錢ノミト。古來利ノタメニ奔走スルコト此ノ如シ。然リ而シテ尊卑貴賤各自其分アリ。苟モ廉耻ヲ重ムズルモノハ。卑賤ノ家ニ求ムルモ容易ニ得ベカラズ。而シテ貴豪ノ家ニ於テモ。間亦廉耻傷ブリ耻ヲ知ラサルモノアルニ至ル。今仙石氏ノ如キ。人世最下等ノ醜事ヲ以テ生ヲ營ムモノナリシニアラズヤ。假令其大夫ノ家ニ生レタルモノナルニ由テ。自ラ廉ヲ守リ貧ヲ厭フノ餘習ヲ具フルアリトモ。氣ハ居ニ由テ移リ。體ハ養ヒニ由テ變ズルハ人ノ常態ナリ。然ルニ居ル所穢褻ナル此ノ如クニシテ。移ラズ變ゼズ。其清廉剛勇ナル稟賦ニ出ルト雖也。抑モ亦母氏ガ雅訓ノ以テ之ニ達スルモノアルニ非ズシバ。豈能ク此ノ如クナルヲ得ム

ヤ。思フニ前ニ引ク所ノ太史公ガ貨殖傳曾褒カ錢神論ノ如キ。世間ノ情態ヲ曲盡セルノミナラズ。暗ニ當時ノ風俗。利ニ趨リ。富ミヲ羨ムノ太甚シキヲ諷刺セルモノタリ。漢代ノ古ハ晉時ノ昔シ。猶小且ツ然リ。況ヤ今世ニ於テヤ。人智漸ク開達スト雖ドモ。廉耻漸ク地ヲ掃フ。風浮薄ニ流ガレ。俗澆漓ニ趨ムキ。大丈夫ヲ以テ自負スル者ト雖也。尚ホ且ツ利ヲ見テ義ヲ忘レ。危キニ臨ムテハ苟クモ免カレ。況ヤ日ニ牙籌ヲ執テ。錙銖ヲ競ヒ毫厘ヲ争フノ徒ヲヤ。若シ彼輩ヲシテ此女ノ風ヲ聞カシメバ。豈ニ赧然タルナキヲ得ンヤ。

第二十 盟道菴ノ清介ナリシ事

道菴ハ。何許ノ人ナルヲ知ラズ。江戸神田豐島街ニ僑居ス。

妻子モ無ク。僮僕モ無ク。躬ラ薪水ヲ執リ。怡然トシテ自カ
ラ安ニス。性間淡ニシテ。醫術ニ精ハシ。富人治ハカトヤ
ハ。辭シテ應ヘズ。貧困ナル者ハ。則チ錫鬻シテ之ニ赴ク。同
街ニ藥舗アリ。善ク之ヲ視ル。凡ソ藥資ノ至ルトキハ。封ヲ
發セズ。數ヲ照サズ。直チニ之ヲ藥舗ニ委タヌ。時ニ隨テ給
ヲ取り。未ダ曾テ計算ヲ問ハズ。或ハ謝セザルモノアレハ。
毫モ意ヲ經ズシテ。寒暑ヲ寘餞ス。金ヲ擲ムテ柳原ノ浮舗
ニ就キ。軀ニ適スルモノヲ擇ム。之ヲ買ヒ。脱スル所ノ故
衣ヲ抱キ。途次ニテ乞丐老病ナル者ヲ視レバ。之ヲ與フ。出
入寢起。惟一衣ノミ。故ヲ以テ恒ネニ垢敝綻裂ヲ極ハム。頭
剃ルコト罕レニシテ。栗殻ノ如ク然リ。洗浴動モスレバ。時
月ヲ逾ユ。一タビ皮膚ヲ撥ケバ。塵垢瓜ニ滿ツ。人目シテ垢

道菴ト曰フ。道菴之ヲ聞キ。笑テ曰ク。善シ。因テ亦垢道菴ト
稱ス。時ニ妓館ニ遊ベバ。必ズ醜貌售レザルモノヲ買ヒ。酒
肴ヲ命ジ。歌舞ヲ奏セシメ。興酣ナルニ及ンデ曰ク。足レリ。
樂ミ何ゾ極ム可クニヤト。房ニ入ラズシテ去ル。或ハ刺金
アルトキハ。轎ヲ賃スル。亦必ズ老夫ニ於テス。往クコト五
六町。轎ヲ下テ曰ク。轎ハ歩スルニ如カザルナリト。錢ヲ與
ヘテ多ヲ辭スレバ。喻シテ曰ク。歩ハ則チ我ガ便ナリ。約何
ゾ違フベケンヤト。投ジテ去ル。暮年名大都ニ噪グ。一日行
脚僧アリ。來テ曰ク。同伴者途ニシテ篤疾ニ罹リ。増上寺ノ
支院ニ投養ス。曰ク。先生ノ藥ヲ服スルヲ得バ。斃ルトモ
憾ミズト。幸ニ診セヨ。道菴曰ク。諾。明日藥囊ヲ臂ニシテ。社
ク。僧祭衣莊飾シテ之ヲ坐ニ延キ。謝シテ曰ク。僧正疾之。百

が驗ナシ。久ク鴻名ヲ聞キ。一診ヲ得ント欲ス。然レ氏之ヲ
招グ。來ラザランヲ恐ル。故ヲ以テ吾儕誘テ之ヲ致ス。幸
ニ之ヲ恕セヨト。道菴撫然トシテ濕笑シテ曰ク。我高貴
ヲ療ズルコトハ未ダ嘗テヒス。例ヲ破テ之ヲ診セント。乃
チ診シテ曰ク。是ハ死病ニ非ルナリ。為スベキナリト。乃チ
劑ヲ作ル。衆大ニ悦ビ厚ク之ヲ待シ。還ルニ及ビ輜ヲ命ズ。
道菴頭ヲ掉テ曰ク。之ヲ去レト。自ラ藥囊ヲ臂ニシテ歩シ
テ歸ル。後ヲ果シテ愈ユ。厚ク之ヲ謝シ。且ツ欲スル所ヲ問
フ。答ヘズ。僧正竊カニ街長ニ喻シテ曰ク。翁老タリ。或ハ窮
乏スルアラバ必ズ報ビヨト。居ルコト數年疾ニ罹ル。乃チ
報ス。數存問シテ珍羞ヲ加饒ス。一日藥鋪來リ謂テ曰ク。僕
未庄ノ郷貫親戚ヲ問ス。而シテ告ゲズ。今先生疾ム。恐クハ

起ダガラレ。願ハズ親戚ヲ招ギ俱ニ之ヲ視。且ツ後事ヲ謀
カレト。一簿ヲ呈シテ曰ク。出入ヲ乘除シテ。餘金若干アリ。
請フ歸附スル所ヲ得ント。道菴頭ヲ掉テ曰ク。吁。吾々我弱
喪遂轉シテ郷貫ヲ知ラス。久ク厚意ヲ荷ス。今汝ノ手ニ死
スルハ。實ニ奇因縁ナリ。旦暮ノ人金ニ何カアランヤト。目
ヲ文簿ニ寓セズ。後チ是事ニ及べハ答ヘズ。死スルニ及ビ
僧正導師トナリテ。之ヲ其先兆ノ側ラニ竈セリトイフ。
櫻所子曰。或人余ニ謂テ曰ク。演劇ハ善ク人情世態ヲ寫シ
出セルモノナリ。貴官ノ閑雅。妃女ノ婉柔。武人ノ慍悍。奴僕
ノ粗野。其風采態度ヲ曲盡セサルハナシ。而シテ院本ヲ讀
ミ劇ヲ觀ルニ。未ダ曾テ僧ト鑿トノ姦黷ナラサルハナキ
モノ。恰モ婦女ノ扮裝ヲナスモノ。必ズ悲泣踰哭セサルナ

キト一般ナリ。是世上ノ僧タリ鑿タルモノ。道德ト仁術ト
ヲ以テ。其外面ヲ裝飾スト雖トモ。姦黠ナル者多カリシ事
ヲ罵シ出セルモノナルベシト。此評ノ允當ナリヤ否ヤハ
暫ク措テ論セズシテ可ナリト雖トモ。日夜道德ノ教ニ薰
染スル所ノ僧。終歲仁ノ術ヲ事トスル所ノ鑿ハ。共ニ是レ
道德仁術ニ慣習スルノ久シキニ及ベハ。翻テ靈泉ノ傍ニ
住スル者ハ。靈泉其身ニ効ナク。藥餌ヲ服スルコト。數年ニ
及ブモノハ。藥効自ラ薄ク。恒ニ酒ヲ嗜ミ痛飲スルモノハ。
美酒醇醪ヲ飲ムト雖トモ。酔フコト自ラ遅クシテ。酒量ノ
漸次ニ増スモノ、如クナルカ。余世ノ僧タリ鑿タル人ヲ
見ルニ。僧ニシテ其德義ノ夙カニ在家ニ劣リ。鑿ニシテ其
仁術ヲ以テ特術ト鑿ルモノ。太^タ鮮^ハカカラサル^ハ也。

シ。然レバ則チ或人ノ言。亦美ゾ院本ノ作者ガ。幽意微旨ヲ
看破セルニハ非ズト言フヲ得ンヤ。夫ノ道菴ノ若キ身貧
賤ニ安ムジ。未ダ嘗テ尊貴豪富ノ門ニ過ギラス。其名利ヲ
視ルコト。附贅懸疣ノ如クス。靈府灑然トシテ。一點ノ塵垢
ヲ存セズ。其形狀ニ由テ。世人ハ目スルニ垢道菴ヲ以テシ
タリ。余ハマサニ其精神ニ由テ。之ヲ稱歎スルニ無垢清淨
ヲ以テセントス。况ヤ其為ス所ヲ察スルニ。故衣ヲ乞丐老
病者ニ施シ。妓ノ醜貌售レサル者ヲ買ヒ。老夫ノ輪ヲ賃ス
ル等。ミナ尋常ニ異ナル所ナリ。富人治ヲ乞フトキハ之ヲ
辭シ。貧困者ハ則チ竭蹶シテ之ニ赴クトイフニ至テハ。其
濟物ノ仁ト。清介ノ操トハ。實ニ高風遠韻。以テ鄙汚躁急ノ
疾ヲ鑿スルニ足ル謂ツベシ土木ヲ外ニシテ。金玉ヲ内ニ

スルモノナリト。今世醫學大ニ進ミ、人ヲシテ壽域ニ躋ボ
ラシムル其人アリト雖ドモ、其濟物清介、道菴ニ似タルモ
ノヲ見ント欲スルモ、亦得易スカラズ。嗚呼其潛德幽光、實
ニ敬崇スベキモノアリ。世人徒ニ之ヲ目シテ奇人トシ、而
シテ其行為ヲ視テ、翻テ之ヲ嘲笑シ、清廉無垢ノ人ヲ侮蔑
スルコト勿レ。

第廿一 小島蕉園金ヲ卻ケテ受ケザリシ事

小島蕉園名ハ公倫、武藏江戸ノ人ナリ。讀書ヲ好ミ善ク文
ヲ屬ス。稟性清介ニシテ、才治民ニ長ズ。褐ヲ釋テ德川氏ノ
親藩田安侯ノ稅官トナリ。甲斐ニ徙テ居ル。甲斐ノ民俗タ
ルヤ、頑悍ニシテ頗ル治メ難シトナス。蕉園府ニ入ル。首ト
シテ民ノ利病ヲ察シ、精ヲ勵マシテ治ヲ講ズ。未タ數年ヲ

出スシテ、惠政德化部内ニ洋溢シ、人神明ト稱ス。父老相告
グテ曰ク、從前ハ吏ハ大抵治ムスシテ、之ヲ擾ダス、擾サス
シテ之ヲ治ムル者ハ、獨リ此君アルハト。後チ其職ヲ得
ザルアリ。自ラ劾シテ江戸ニ還リ、磯野弘道ニ從ヒ、醫ヲ學
ンデ其奧妙ヲ窺フ。後チ本郷竹街ニ僑居ス。屋宇矮陋、僅カ
ニ風雨ヲ蔽フ。嘗テ德本ノ風ヲ慕ヒ、治ヲ乞フ者アレバ、青
囊ノ肘ニシテ往キ、藥資ヲ取テ去ル。妻已ニ死シ、獨リ母ト
居ル。膝下ノ色養、菽水ノ歡ヲ盡ス。甲斐ノ父老相謂テ曰ク、
吾黨ノ今日アルハ、君ノ惠多キニ居ルニアラスヤ。聞ク頃
來内ヲ喪ヒ且ツ貧窶ナリト。報酬スル所ナクンバアルベ
カラザルナリ。甲唱ヒ乙和シ、立ドコロニ百金ヲ獲タリ。其
面ヲ知ルモノ三人、衆ニ代リ金ヲ齎ラシテ來ル。母出デ、

門ニ應ズ。三人地ニ伏シテ恩ヲ謝シ候ヲ問フ。情辭色ニ溢ル。金ヲ取テ之ヲ呈ス。母吁嗟良久フシテ謝シテ曰ク。厚意謝スレドモ曷ゾ罄キンヤ。但我ガ兒猶介ニシテ人ノ惠ニ當タルコトヲ欲セズ。然リト雖ドモ適在テサレバ。吾將サニコレヲ蔵シテ其還ルヲ俟タントス。請フ明日復タ來レト。皆拜謝シテ去リニキ。蕉園ガ還ルニ及ビ。母具サニ之ヲ告グ。蕉園亦嘆嗟シテ曰ク。方今情義薄キコト紙ノゴトシ。儼然タル士大夫ト雖ドモ。德義ノ何事タルヲ知ル者或ハ希レナリ。何況ヤ。農夫ヲヤ。何況ヤ。頑悍ニシテ化シ難キ甲民ノ如クナル者ニ於テヲヤ。而シテ今此ノ如シ。亦以テ以ク母ノ心ヲ慰スルニ足ランカ。然リ而シテ民ノ物一介ヲモ受ケス。況ヤ百金ノ重キヲヤ。尊旨果シテ何如。母曰ク。吾

固ヨリ其然ルヲ知ル。然レドモ直チニ之ヲ卻ゾケハ其厚意ヲ傷ブル。且ツ專斷事ヲ處スルモ。亦吾ノ道ニアラス。故ニ權リニ収メタルノミト。蕉園大ニ喜ビ請フテ曰ク。之ニ飲食セシメ。勞フニ人事ヲ以テセント欲ス何如ト。母曰ク善シ。明日自ラ往キ。團扇ト酒肴トヲ買ヒ。母料理シテ以テ其來ルヲ待ツ。既ニシテ來リ。膝行斂角。恩ヲ拜シ德ヲ謝ス。蕉園之ニ座ヲ與ヘ。縷々慰謝シテ。共ニ往事ヲ談シ。之ニ飲シ之ニ食シ。且ツ貽ルニ團扇ヲ以テス。情意極メテ厚シ。民感極テ淚下ル。既ニシテ金ヲ取り之ヲ卻ケテ曰ク。汝曹故ヲ忘レス。暑ヲ冒シテ來リ訪フ。況ヤ釀金シテ吾々賒乏ヲ周ハントス。厚誼何如トセンヤ。然リト雖ドモ嚮ニ施行スル所ハミナ公命ニ出テ。私惠ニアラス。民ニ在テ私ニ報

エル。ハ。義。ナ。ク。我。ニ。於。テ。私。ニ。受。ク。ル。ハ。理。ナ。シ。藥。ヲ。賣。テ。生
 子。營。ミ。母。モ。亦。貧。ヲ。安。ン。ズ。請。フ。念。ヲ。煩。ハ。ス。コト。勿。レ。歸。ル
 ノ。日。善。ク。我。ガ。タ。メ。ニ。衆。ニ。謝。セ。ヨト。ミ。ナ。愕。然。ト。シ。テ。反。復
 之。ヲ。致。ス。ト。雖。ド。モ。可。カ。ズ。淚。ヲ。垂。レ。テ。之。ヲ。言。ヘ。亦。淚。ヲ。収
 メ。テ。之。ヲ。拒。ム。相。争。フ。コト。多。時。終。ニ。受。ケ。ズ。民。咨。嗟。シ。テ。金
 子。懷。キ。テ。拜。辭。シ。依。回。顧。望。久。フ。シ。テ。後。ニ。去。ル。其。還。ル。ニ。及
 ビ。衆。ヲ。聚。メ。テ。具。サ。ニ。其。狀。ヲ。話。ス。皆。感。激。シ。テ。相。泣。ク。因。テ
 其。金。ヲ。以。テ。生。祠。ヲ。建。テ。之。ヲ。祠。ル。ト。云。フ。田。安。侯。ノ。封。邑
 參。河。ニ。在。ル。モ。ノ。地。水。旱。ニ。苦。ミ。其。民。俗。偷。惰。狡。猾。ニ。シ。テ。頗
 ル。治。メ。難。キ。ヲ。病。ム。公。蕉。園。ガ。鑿。民。ニ。長。ズ。ル。ヲ。以。テ。使。ヲ。遣
 ハ。シ。テ。之。ヲ。召。聘。ス。蕉。園。固。辭。ス。使。者。相。望。ミ。遂。ニ。任。ニ。赴。ク。
 治。績。粗。顯。ハ。ル。既。ニ。シ。テ。痛。ヲ。患。ヘ。年。六。十。一。ニ。シ。テ。卒。ス。蕉

園。再。娶。セ。ザ。ル。ヲ。以。テ。子。無。シ。其。志。行。獨。介。廉。潔。ニ。シ。テ。故。厲
 子。衰。祿。ト。ナ。ス。コト。ヲ。欲。セ。ズ。甚。ダ。泛。交。ヲ。惡。ム。金。蘭。相。契。ル
 モ。ノ。至。テ。稀。ナリ。嘗。テ。岡。本。某。ノ。第。三。子。ヲ。以。テ。嗣。ト。為。リ。シ
 ト。ス。歿。後。故。ア。リ。テ。果。サ。ズ。遂。ニ。其。祀。ヲ。絶。ツ。而。シ。テ。甲。民。ノ
 香。火。ハ。久。シ。ク。衰。ヘ。ズ。ト。云。ス。

櫻。所。子。曰。蕉。園。ノ。治。民。ニ。長。ズ。ル。ハ。廉。潔。獨。介。ノ。常。倫。ニ。超。絶
 ス。ル。ア。ル。ヲ。以。テ。ナリ。夫。ノ。德。川。氏。ノ。季。世。國。侯。邑。主。ヲ。除。ク
 ノ。外。人。民。ヲ。保。護。ス。ル。ノ。重。キ。ヲ。舉。ゲ。テ。之。ヲ。代。官。ニ。委。ス。而
 シ。テ。其。代。官。タ。ル。モ。ノ。ハ。祿。薄。ク。秩。卑。キ。ヲ。以。テ。翻。テ。其。任
 ノ。重。ク。シ。テ。責。ノ。大。ナル。コト。ヲ。忘。レ。動。モ。ス。レ。バ。民。ヲ。治。メ
 ズ。シ。テ。之。ヲ。擾。ダ。シ。宣。化。勸。農。ノ。何。事。タ。ル。ヲ。知。ラ。ズ。其。屬。吏
 ノ。如。キ。貧。憊。無。識。ニ。シ。テ。恣。ニ。民。ノ。膏。血。ヲ。朘。削。シ。逐。剥。悍。鯨

二及ビ。民怨ヲ買テ官ニ貽ラザルモノ殆シト希ナリキ。是
固ヨリ武門專制ノ世。政弊日ニ積疊スルノ時ナリシヲ以
テ良臣循吏其人ニ乏シク。上ニ王侯アリ。下モ百官ヲ設ク
ルハ。至竟斯氓ヲ保護スルガ為メニ非ルナキコトヲ解知
セザリシニ由ル。然ルニ蕉園此政弊積疊ノ時ニ在テ。屹然
トシテ獨リ狷介廉潔ヲ守リ。貧ヲ安ム。困ヲ甘ム。恰カ
モ梅花ノ霜雪ヲ傲リ。蓮華ノ淤泥ヲ出デタルカ如シ。其高
風清節。實ニ欽仰スベキモノタリ。思フニ任ヲ地方ニ受ケ。
人民ニ親接スルモノ。廉潔ヲ守ルヲ以テ第一トス。若シ百
般ノ政務。闕漏アルコトナシト雖ドモ。一ノ廉清ヲ闕クト
キハ。吏能アリト雖ドモ。必ス怨嗟アルヲ致タサシ。婦ニシ
テ妬マザレバ。百拙ヲ掩フ。吏ニシテ貪ラザレバ。百不能ヲ

掩フベシ。今ヤ政清ク刑肅シ。舞文弄法ノ跡。全ク絶滅シ。厚
賂重遺以テ姦ヲ計ラントスル者。亦全ク踪影ヲ藏リム。然
リト雖ドモ。廉清蕉園ノ如キ人ヲ求ムルトキハ。必ズ太々
多キコトアラザルベシ。然レバ則チ斯事ヲ叙シ。以テ天下
後世。吏士タルモノ。模範トナスモ。亦全ク徒勞ニアラザ
ルベキヲ信ズルナリ。

第廿二 販魚者谷平遺金ヲ還ヘシタル事

上野新田郡酒井村アリ。秋社肆ヲ張テ市ヲ為ス。尾島村ノ
販魚者谷平トイフモノアリ。市ニ適ク。途ニ安養寺村ヲ過
グ。墓樹上群鴉喧噪スルコト太甚シ。谷平以為ク。墓間何ノ
恠異カアルト。旋行テ之ヲ矚フ。交蛇ノ碑間ニ横タハルヲ
見ル。谷平謂ク是ナリト。シバラクアリテ蛇動カス。漸ク就

日本書紀卷之四十四 孝德天皇本紀第二十四 上野新田郡酒井村

テ之ヲ視レバ則チ棉絲線綴ナリ。之ヲ牽ケハ則チ布囊出
ツ。之ヲ啓ケバ則チ金五十兩アリ。封題シテ卯兵衛ト曰フ。
谷平人ニ駭キ。尋思シテ以為ク。安養寺村ニハ。多貴ナル者。
唯一卯兵衛アルノミト。渠僕市ニ適キテ之ヲ遺トセルナ
リト。乃チ其金ヲ懐口ニシテ往ク。卯兵衛果シテ肆ニ在リ。
疾呼シテ問テ曰ク。卿遺ス所アリヤト。卯兵衛頭ヲ掉テ曰
ク否々。谷平以為ク。衆人中ニシテ之ヲ言フ。吾カ過チナリ
ト。乃チ之ヲ去リ。鬻酤市散ジテ復々往ク。就テ問フテ曰ク。
君遺ス所アルカト。卯兵衛復々曰ク否々。谷平以為ク。猶ホ
他人ノ室ニ在ルヲ以テナリ。亦吾過テリト。又之ヲ去リ。其
歸ルヲ時トシテ。其家ニ踵リ見ユルヲ請フ。卯兵衛曰ク何
ノ言フ所ゾヤ。谷平曰ク。卿必ズ遺ス所アルナリ。蓋ゾ我カ

タノニ之ヲ言ハザルヤ卯兵衛曰ク。否々。谷平愠テ曰ク。互
十兩ノ金。題シテ卯兵衛ト曰フモノ。卿ニ非ズシテ復々何
ノ卯兵衛ナルヤト。囊ヲ取テ其前ニ投ジ。因テ以テ金ヲ得
タル所以ノ者ヲ告グ。卯兵衛肯テ金ヲ受ケズシテ曰ク。此
レ我レ之ヲ遺トス。既ニ吾ハ有ニ非ズ。而シテ子之ヲ拾ハ
即チ子ガ財ナリ。吾何ゾ與カランヤト。谷平ガ曰ク。吾之ヲ
拾ハニ非ルナリ。コレハ卿ニ還サント欲スルガ故ニ之ヲ
擧ゲタルハミト。固ク相譲リ。皆肯テ取ラズ。卯兵衛又手シ
テ之ヲ思フコトヤ。久フシ。熟視シテ言テ曰ク。子強辯シ
テ我ニ托ス。マタ能ク天ニ托スル歟ト。曰ク。能ハス。卯兵衛
乃チ曰ク。我レ市ニ適ク。過ギテ墓ヲ拜ス。事ナキナリ。夫ノ
金ハ人ノ重ンズル所ナリ。而シテ我偶之ヲ遺トス。豈ニ天

ニアラスヤ。鴉噪ギ蛇優シ。子ヲ導キ之ヲ拾ハシムルモ亦
天ナリ卯兵衛ハ天ニ違ヒ而シテ金ヲ取ルコトヲ得ズ。谷
平亦安ンゾ天ニ違ヒ而シテ金ヲ還スコトヲ得ンヤト。谷
平嘿然タルコト之ニ久フシテ乃チ曰ク谷平天ニ違ハズ。
天他人ヲシテ之ヲ拾ハシムレバ則チ他人ハ有ナリ谷平
ハ義トシテ苟クモ取ラズ拾フコトアレバ必ズ主ヲ訪フ
テコレヲ還ヘスモノナリ。今天苟クモ之ヲ取ラザル谷平
ヲシテ之ヲ拾ハシム。谷平ハ則チ主ヲ訪フテ還ヘス。是レ
天ハ道ヲ奉ズルナリ。卿爲ンゾ復々辭スルコトヲ得ムヤ
ト。言畢リ趨テ出ヅ。卯兵衛猶ホ囊ヲ提ゲ之ヲ追フテ及バ
ズ。歳竟ニ至リ米ニ苞金二分ヲ飽テ谷平ノ壽ヲ爲ス。歳々
以テ常ト爲シ。谷平ノ身ヲ終フ。卯兵衛親ニ事ヘテ孝アリ。

親歿シ將リニ他ニ遺ントスルトキハ必ズ墓ニ謁シ而シ
テ及ルヲ告グルモ亦此ノ如クス。恒ニ施與ヲ好ミ村中窮
乏ノ者ハ之ヲ賑ハス。業ニカトムルモノアレバ之ヲ賞ス。
終リニ臨ムデ遺命シテ曰ク。稻麥三倉急アリト雖ドモ。輒
チ糶スルコトヲ得ズ。必ズ新舊ヲ交換セヨ。曰ク三倉ハ以
テ一村ノ饑ヲ濟フニ足ルナリト。其善ク財ヲ理ムルヲ以
テ。毎ホニ施散シテ財常ニ餘リアリシトイフ。

櫻所子曰。谷平ハ貧賤ニシテ魚ヲ販グヲ以テ生ヲ營ムモ
ノ、之。卯兵衛マタ贊財アリト雖ドモ固ヨリ道ヲ知リ理
ヲ明カニスルモノニ非ズ。而シテ互ヒニ遺金ヲ爭フ。夫ノ
畔ヲ避クルヲ觀テ。稟肉ノ訟ノ止ミタルコトノ如キ。人口
ニ膾炙スル所ナリト雖ドモ。周室ノ始メ。治上ニ隆リニ。

俗下ニ美ハシキ時ナレバ。亦宜ク此ノ如クナルベシ。近ク
ハ近州ノ馬奴。遺金ヲ還シテ其謝儀ヲ取ラザル事ノ如キ。
亦人ノ稱讚スル所ナリト雖トモ。近江聖人ト呼バレタル。
藤樹翁ノ薰陶スル所ナレバ。亦深ク恠ムニ足ラズ。卯兵衛
谷平ノ如キ。太平ノ日ニ生レタリトモ。其風化ノ淳樸ナル。
豈周代ノ隆昌ナル時ニ比スベケンヤ。其師父ノ訓誨。固ヨ
ヨリ藤樹翁其人ノ如キモノ無シ。而シテ其狷潔ナルハ。貧
夫ヲシテ廉ナラシムルニ足ル。子輿氏曰ク。豪傑ノ士ハ。文
王ナシト雖。臣猶ホ興ルハ。我卯兵衛ト谷平ニ於テモ亦云
フ